

平成 28 (2016) 年度

社会科学研究所経営学専攻
(高度専門職業人養成プログラム)

授業概要・履修案内

首都大学東京大学院社会科学研究所

目 次

I	専任教員等一覧	1
II	経営学専攻（高度専門職業人養成プログラム）の修了要件	2
III	丸の内サテライトキャンパス授業時間について	4
IV	授業科目一覧	5
V	授業概要	
	◆ 第I群科目	9
	◆ 第II群科目	29
VI	交通機関運休の場合等の授業の取扱いについて	58
VII	丸の内サテライトキャンパス平面図	59

Ⅲ. 丸の内サテライトキャンパス授業時間について

丸の内サテライトキャンパスの授業時間は以下のとおりです。平日と土曜日で授業時間が異なります。また南大沢キャンパスとも授業時間が異なりますのでご注意ください。

【月曜日～金曜日】

時限	授業時間	主な授業実施プログラム
1時限	9:30～11:00	高度金融専門人材養成プログラム (MF)
2時限	11:15～12:45	
3時限	14:00～15:30	
4時限	15:45～17:45	
5時限	18:20～19:50	高度専門職業人養成プログラム (MBA) ※
6時限	20:00～21:30	

※2015年度までの高度専門職業人養成プログラムの1時限及び2時限は、2016年度から5時限及び6時限という表記に変更しました。授業時間に変更はありません。

【土曜日】

時限	授業時間	主な授業実施プログラム
1時限	10:30～12:00	高度専門職業人養成プログラム (MBA)
2時限	13:00～14:30	
3時限	14:40～16:10	
4時限	16:20～17:50	

Ⅳ. 授業科目一覽

区分	頁	授業科目		単位	担当教員	備考	
		～2015年度入学生	2016年度～入学生				
第 I 群 科 目	11	経営学特論	経営学特論	2	桑 田 耕太郎		
	12	経営戦略特論	経営戦略特論	2	森 本 博 行		
	13	経営戦略特別演習	経営戦略特別演習	2	松 田 千恵子		
	14	経営組織特論	経営組織特論	2	高 尾 義 明		
	15	意思決定特論	意思決定特論	2	長 瀬 勝 彦		
	16	テクノロジー・マネジメント特論	テクノロジー・マネジメント特論	2	松 尾 隆		
	17	コーポレート・ファイナンス特論	コーポレート・ファイナンス特論	2	中 岡 英 隆		
		金融工学基礎特論	(科目廃止)	2		今年度休講	
	18	マネジメント・サイエンス特論 I	マネジメント・サイエンス特論 I	2	森 口 聡 子		
	19	マーケティング・マネジメント特論	マーケティング・マネジメント特論	2	水 越 康 介		
	20	マーケティング・サイエンス特論	マーケティング・サイエンス特論	2	中 山 厚 徳		
	21	企業経済学基礎特論	企業経済学基礎特論	2	芝 田 隆 志		
	22	戦略的ゲーム理論特論	戦略的ゲーム理論特論	2	渡 辺 隆 裕		
	23	経営分析特論	経営分析特論	2	浅 野 敬 志		
	24	管理会計特論	管理会計特論	2	細 海 昌 一 郎		
	25	財務会計特論	財務会計特論	2	野 口 昌 良		
		金融数学特論	(科目廃止)	2		今年度休講	
	26	証券投資特論	証券投資特論	2	磯 貝 孝		
	27	経営データ分析特論	経営データ分析特論	2	山 下 英 明		
	第 II 群 科 目	31	国際経営特論	国際経営特論	2	森 本 博 行	
		32	組織行動特論	組織行動特論	2	高 尾 義 明	
		33	ヒューマン・リソース・マネジメント特論	ヒューマン・リソース・マネジメント特論	2	西 村 孝 史	
		34	生産戦略特論	生産戦略特論	2	松 尾 隆	
			マーケティング戦略特別演習	マーケティング戦略特別演習	2		今年度休講
		35	ベンチャービジネス特論	ベンチャービジネス特論	2	高 橋 勅 徳	
		36	ビジネスイノベーション特別演習	ビジネスイノベーション特別演習	2	高 橋 勅 徳	
			企業変革論特別演習	企業変革論特別演習	2		今年度休講
		市場リスク特論	(科目廃止)	2		今年度休講	
37		信用リスク特論	信用リスク特論	2	村 内 佳 子	2016年度のみ開講	
		資産価格特論	資産価格特論	2		今年度休講	
		リアルオプション特論	リアルオプション特論	2		今年度休講	
		デリバティブ特論	(科目廃止)	2		今年度休講	
		金融計量分析特論	(科目廃止)	2		今年度休講	
		金融システム特論	金融システム特論	2		今年度休講	
		経営学演習 (経営財務論 I)	経営学演習 (経営財務論 I)	2		今年度休講	
		経営学演習 (経営財務論 II)	経営学演習 (経営財務論 II)	2		今年度休講	
		マネジメント・サイエンス特論 II	マネジメント・サイエンス特論 II	2		今年度休講	
38		マーケティング・サイエンス特別演習	マーケティング・サイエンス特別演習	2	尾 崎 幸 謙		
		時系列解析特論	時系列解析特論	2		今年度休講	
39		経営数理特論	経営数理特論	2	室 田 一 雄		
		経営史特論	経営史特論	2		今年度休講	
		現代日本経済史特論	現代日本経済史特論	2		今年度休講	
		ロジカル・シンキング特別演習	ロジカル・シンキング特別演習	2		今年度休講	
40		ロジカル・ライティング I	ロジカル・ライティング I	2	照 屋 華 子		
41		ロジカル・ライティング II	ロジカル・ライティング II	2	照 屋 華 子		
42		経営学演習 (グループ研究 I)	経営学演習 (グループ研究 I)	2	オムニバス		
42		経営学演習 (グループ研究 II)	経営学演習 (グループ研究 II)	2	オムニバス		
43		経営学演習 (財務戦略)	経営学演習 (財務戦略)	2	松 田 千恵子		
		経営学演習 (マーケティング・リサーチ)	経営学演習 (マーケティング・リサーチ)	2		今年度休講	
44		経営学演習 (公共経営アクションリサーチ)	経営学演習 (公共経営アクションリサーチ)	2	松田・松尾・高尾		
45	経営学演習 (知的財産法)	経営学演習 (知的財産法)	2	溝 田 宗 司			
	経営学演習 (会社法)	経営学演習 (会社法)	2		今年度休講		
46	経営学演習 (経営戦略とリアルオプション)	経営学演習 (経営戦略とリアルオプション)	2	中 岡 英 隆			
	経営学演習 (英語プレゼンテーション・スキル)	経営学演習 (英語プレゼンテーション・スキル)	2		今年度休講		
47	経営学演習 (企業倫理)	経営学演習 (企業倫理)	2	岡 本 享 二			
48	経営学演習 (CSR特論)	経営学演習 (CSR特論)	2	岡 本 享 二			
49	経営学演習 (戦略経営 I)	経営学演習 (戦略経営 I)	2	坂 本 雅 明			
50	経営学演習 (戦略経営 II)	経営学演習 (戦略経営 II)	2	坂 本 雅 明			
	経営学演習 (ケース)	経営学演習 (ケース)	2		今年度休講		
51～	経営学特別演習	経営学特別演習	2	各 教 員			
	研究指導	研究指導	2	各 教 員			
第Ⅲ群科目	研究者養成プログラム (南大沢キャンパス) 及び高度金融専門人材養成プログラム開講科目、但し除外科目あり						

※ 経営学特別演習及び研究指導は必修科目

V. 授業概要

第 I 群 科 目

授業科目名	M	経営学特論	授業番号	P003	単位数	2
担当教員	桑田 耕太郎		前期	月曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	経営学は現代産業社会の基礎的構成要素である企業を対象とし、企業およびそのベースとなっている産業社会の構造や行動のメカニズムを解明する学問です。この授業では、ビジネススクール入学前に、特に経営学のトレーニングを受けていない学生を主要な対象として、企業の外部環境への適応と、内部統合・経営管理の主要なトピックスについて、具体的な事例をひきつつ、経営学の基礎知識と経営学的な思考様式を学ぶことを目的としています。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営学は現代産業社会の基礎的構成要素である企業を対象とし、企業およびそのベースとなっている産業社会の構造や行動のメカニズムを解明する学問です。この授業では、企業の外部環境への適応と、内部統合・経営管理の主要なトピックスについて、具体的な事例をひきつつ、経営学の基礎知識と経営学的な思考様式を学ぶことを目的としています。					
③授業計画・内容	I 経営学の基本的フレームワーク 第1回 なぜ経営学を学ぶのか 第2回 企業と経営 第3回 組織の概念と経営者の役割 第4回 意思決定の概念とプロセス II 経営行動の分析-デザインパースペクティブ 第5・6回 経営戦略のデザイン 第7・8回 競争優位の獲得 第9・10回 経営組織構造のデザイン 第11・12回 組織の中の人間と管理 III 企業成長と経営政策 第13回 企業の成長と発展 第14・15回 現代企業の諸課題					
④テキスト・参考書等	テキスト：特に指定しないが、S-cubicにて随時紹介する 参考文献： 伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社 桑田耕太郎・田尾雅夫『組織論』有斐閣 A. D. チャンドラー『組織は戦略に従う』ダイヤモンド社 C. I. バーナード『経営者の役割』ダイヤモンド社					
⑤成績評価方法	随時おこなうレポート（50％）および授業への貢献（50％）による					
⑥特記事項	これまで経営学を学んだことのない学生に、特に推奨する 経営戦略、経営組織論、ヒューマンリソースマネジメント、経営行動論、マーケティングなどを専攻する学生にとっては、特に重要な導入科目である。 授業に必要な資料や課題の配布、質問、相談、アポイントメントは、メール等を活用して行う。					

授業科目名	M	経営戦略特論	授業番号	P037	単位数	2
担当教員	森本 博行		前期	土曜日	1 時限	
①授業方針・テーマ	経営戦略とは、不確実性の高い事業環境において、企業が価値を創造し、価値を獲得するための時間展開や方向性の提示であり、それによって組織メンバーを説得したり、コントロールする役割を担っています。そのためには経営戦略の論理を学びます。具体的な企業事例を通して、MBAの知識として必要な経営戦略理論の修得を目指します。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	授業は、高水準の収益を生み出す競争優位の源泉とは何か、同じ事業環境下において競争企業間での収益格差がなぜ生まれるのか、経営戦略の「理論と実務の架橋」を目的として、戦略策定の論理性を修得することを目的とします。					
③授業計画・内容	<p>授業では事前に配布されたアサインメントにもとづく課題の討議と、より理解を深めるための代表的な先行研究についての概説を織り交ぜた形式で行います。アサインメントは、前半部ではHarvard Business Review (HBR) に掲載された代表的な論文（日本語訳）を使用します。また後半部ではケース・ディスカッションを行います。</p> <p>(1) オリエンテーション：戦略とは何か (2) 競争要因と業界構造：M・Eポーター「競争の戦略（戦略を形成する五つ競争要因）」 (3) ゲーム論に基づく競争戦略：A・ブランデンバーガー、B・ネイルバフ「ゲーム理論を活用した成功への戦略形成」(HBR) (4) コア・コンピタンスと競争優位：C・K・プラハラッド、G・ハメル「コア・コンピタンス経営」 (5) RBVに基づく競争戦略：D・コリス、S・モンゴメリー「コア・コンピタンスを実現する経営資源再評価」(HBR) (6) 経営戦略と戦略策定：H・ミンツバーグ「戦略クラフティング」(HBR) (7) 経営戦略の本質：M・ポーター「戦略の本質」(HBR) (8) 全体最適と多角化戦略：森本博行「全体最適のグループ経営戦略」(HBR) (9) コストリーダーシップ戦略と競争優位：「ファーストリテイリング」(一橋ビジネスレビュー) (10) 製品差別化戦略と競争優位：「花王」(一橋ビジネスレビュー) (11) 先行者利益とニッチ戦略：「キーエンス」(一橋ビジネスレビュー) (12) 業務活動システムと模倣困難性：「サウスウエスト航空」(一橋ビジネスレビュー) (13) 新規参入の事業戦略：「アスクル」(一橋ビジネスレビュー) (14) 新興国BOP市場の経営戦略：「味の素」(一橋ビジネスレビュー) (15) 戦略転換と企業変革：「IBM」(HBR)</p>					
④テキスト・参考書等	「競争の戦略」(マイケル・ポーター ダイアモンド社)「戦略サファリ」(ヘンリー・ミンツバーグ 東洋経済)「ミンツバーグ経営論」(ヘンリー・ミンツバーグ ダイアモンド社)「競争戦略論講義」(パンカジ・ゲマワット 東洋経済)「ダイナミック・ケイパビリティ戦略」(デビッド・J・ティース ダイアモンド社)「現場主義の競争戦略」(藤本隆宏 新潮社)「企業戦略論 上 中 下」(ジェイ・B・バーニー ダイアモンド社)「ビジネスモデル教科書」(今枝昌宏 東洋経済)					
⑤成績評価方法	出席状況と提出された課題レポートで総合的に評価します。					
⑥特記事項						

授業科目名	M	経営戦略特別演習	授業番号	P009	単位数	2
担当教員	松田 千恵子		前後期	火曜日	5 時限, 6 時限	
①授業方針・テーマ	本演習は、ケーススタディ方式によって進められる。企業の具体的な事例を通じて、企業経営と資本市場の間にある諸問題に触れ、参加者間で討議をしながら理解を深めていく。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営戦略、財務戦略の知識を、実際の業務において活用できるようになることを目的とする。					
③授業計画・内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 不連続な環境変化への対処-事業・財務・組織を統合して考える ② 企業分析と評価の手法（1）-現状分析をどう行うか ③ 企業分析と評価の手法（2）-市場進化の方向性と競合のメカニズム ④ 企業分析と評価の手法（3）-競争優位性の所在と将来の方向性 ⑤ 成長戦略と資本政策-会社の値段は幾らなのか ⑥ 負債政策と信用リスクへの対処-その格付けは正しいか ⑦ グループ経営におけるコーポレートファイナンスの応用 ⑧ コーポレートファイナンスと企業統治・情報開示・企業の社会的責任 					
④テキスト・参考書等	演習中に適宜指示する。					
⑤成績評価方法	演習中のレポートやプレゼンテーションの作成、演習への貢献度により評価する。					
⑥特記事項	特に無し					

授業科目名	M	経営組織特論	授業番号	P015	単位数	2
担当教員	高尾 義明		前期	火曜日	5 時限	
①授業方針・テーマ	個人に還元できない組織の創発特性をよりよく理解するために、組織を巨視（マクロ）的な視座から捉えるマクロ組織論を中心に、組織についての理論を紹介することを通じて、経営と組織の関係についての考察を深めていきます。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	「組織の時代」である現代において組織に何らかのかたちで関わっていない人はいませんが、自らの経験にのみ依拠した持論だけで組織を捉えている人が少なくありません。そこで、本講義では、理論に基づいて組織の創発的側面について理解を深めるとともに、組織の有効性に影響を与える要因を分析するための知識の獲得を目標とします。					
③授業計画・内容	<p>イントロダクション</p> <p>組織観の把握</p> <p>合理的システムとしての官僚制</p> <p>官僚制の逆機能と自生的システム</p> <p>組織の構造とその設計</p> <p>組織文化のマネジメント</p> <p>組織アイデンティティ</p> <p>組織的意思決定と（非）合理性</p> <p>組織学習とそのジレンマ①</p> <p>組織学習とそのジレンマ②</p> <p>ナレッジマネジメント</p> <p>組織間関係と学習</p> <p>組織変動へのマクロ的視点①</p> <p>組織変動へのマクロ的視点②</p> <p>総括ディスカッション</p>					
④テキスト・参考書等	<p>各回のリーディング・アサイメントを事前に配布します。</p> <p>参考書</p> <p>[1] 桑田耕太郎・田尾雅夫 (2010) 『組織論 補訂版』 有斐閣</p> <p>[2] 金井壽宏 (1999) 『経営組織』 日本経済新聞社</p>					
⑤成績評価方法	成績評価方法発表・発言などによる授業に対する積極的貢献（85%）および学期末レポート（15%）によって評価します（詳細は第1回に説明します）。					
⑥特記事項						

授業科目名	M	意思決定特論	授業番号	P033	単位数	2
担当教員	長瀬 勝彦		前期	金曜日	6 時限	
①授業方針・テーマ	<p>人間の意思決定について、行動意思決定論に立脚して講ずる。意思決定とは物事を決めることである。学生が食堂で注文の料理を決めるような日常の意思決定もあれば、進学や就職、転職、結婚など人生の一大事の意思決定もある。また企業などの組織の中では、経営者をはじめとするすべての構成員が職務上のさまざまな意思決定を下している。この講義では、人間の意思決定が何に影響を受けてどのようなプロセスでおこなわれているかを議論する。</p> <p>授業は一方向の講義ではなく受講生と対話をしながら進行するので、受講者は単に授業の内容をノートにとるだけでなく、積極的に考え発言することが期待される。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>人間の意思決定のありかたは、一般人が思い描いているものとはだいぶ異なっている。人間の意思決定にはさまざまな癖があり、それぞれに「〇〇ヒューリスティック」や「△△バイアス」といった名称が付いている。この講義では数多くのバイアスとヒューリスティックを議論するので、それらの意味内容を習得することを通じて、人間の意思決定について深く理解することがこの講義の目標である。</p>					
③授業計画・内容	<p>以下が授業で取り上げる主な項目である。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 意思決定の合理モデルとその限界 ② 人間の意思決定プロセス ③ データの収集・分析のバイアス ④ 市場への参入とM & Aの意思決定 ⑤ 市場からの撤退と事業売却の意思決定 ⑥ 利己心と公正感情 ⑦ 説得と意思決定 					
④テキスト・参考書等	<p>①から⑥までの教科書は『意思決定のマネジメント』（長瀬勝彦 [著]、東洋経済新報社、2008年）である。ただし、①から⑥までは授業での気づき体験を重視するので、教科書は復習で使用することを推奨する。⑦の教科書は『影響力の武器 [第三版]：なぜ、人は動かされるのか』（ロバート・B・チャルディーニ [著]、社会行動研究会 [訳]、誠信書房、2014年）である（※授業の前に新版が出版された場合はそちらを使用する可能性がある）。参考文献は『あなたがお金で損をする本当の理由』（長瀬勝彦 [著]、日本経済新聞出版社）。その他、随時指示する。</p>					
⑤成績評価方法	<p>提出されたレポートや授業のディスカッションへの参加などが50%、期末試験が50%の比率で評価する。</p>					
⑥特記事項	<p>特定の前提知識は前提としない。ただし人間の心理についての学術的な興味と、日常の知識に束縛されない論理的な思考力が求められる。</p>					

授業科目名	M	テクノロジー・マネジメント特論	授業番号	P017	単位数	2
担当教員	松尾 隆		前期	土曜日	2時限	
①授業方針・テーマ	技術は企業マネジメント、企業戦略の双方にとって、重要な資源であるとともに、企業行動に制約をもたらす。本講義では、そうした技術とマネジメント、戦略との関係を取り上げる。毎回の講義では、1, 2本の論文を取り上げ、それについての発展的な議論を行う。そのため、事前にその回のテーマに即したレポートを提出してもらう。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	テクノロジー・マネジメントに関する基本的内容と今日的トピックを理解し、現実の企業行動の分析に適用することを目標とする。					
③授業計画・内容	<ul style="list-style-type: none"> ① テクノロジーとマネジメント ② テクノロジーと戦略 ③ 技術のライフサイクル ④ 製品アーキテクチャ ⑤ イノベーターのジレンマ ⑥ ユーザー・イノベーション ⑦ 技術統合 ⑧ ゲートキーパー ⑨ 標準化と技術 ⑩ オープン・イノベーション ⑪ イノベーションと組織 ⑫～⑮ 発展的な内容を講義の進展に応じて扱う 					
④テキスト・参考書等	特に教科書は指定せず、毎回、文献を配布する。多くは研究論文を取り上げる予定なので、基礎知識に不安がある場合は、延岡健太郎『MOT[技術経営]入門』日本経済新聞社などを事前に読んでおくが良い。					
⑤成績評価方法	毎回のレポートの内容と講義中の発言による。					
⑥特記事項						

授業科目名	M	コーポレート・ファイナンス特論	授業番号	P005	単位数	2
担当教員	中岡 英隆		後期	月曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	企業のグローバル化が進み、日本企業においても国内外でのM & A戦略が経営上の最重要課題となっている。こうした企業の戦略的な投資や企業価値創造に関わる意思決定には、オプション理論を取り入れた最新の企業価値評価の手法が不可欠である。本講義では、伝統的なコーポレート・ファイナンスの基礎を概観した上で、会社法や契約、ビジネスモデルに織り込まれたオプションの仕組みを解き明かして、オプション理論を活用した投資戦略や株主価値、負債価値、資産価値の評価の手法を学ぶ。さらに、その実践的な応用を目指して、Excelを用いた演習として、事例に基づくオプション戦略の評価を行い、さらに、ケース・ワークにより企業の財務分析を行った上で、企業価値、負債コストを測定する演習を行う。また、最前線の企業活動のケースを読み解きながら、ファイナンスや経営資源、コーポレートガバナンスの視点から、マネジメントによる企業価値創造力やM & Aに対する市場の評価を理論的・実践的に分析し、M & Aの戦略・経済性について洞察を深める。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	伝統的なコーポレート・ファイナンスとコーポレート・ガバナンスやResource-Based Viewの経営戦略論などの視点を融合して、オプション理論を活用した投資戦略や株主価値、負債価値、資産価値の評価の手法を学ぶことにより、不確実性下における企業価値の評価やM & A戦略、マネジメントの価値創造力についての洞察力・実践力を高める。ケース・ワークによる演習として、実際の企業買収や買収防衛策など最前線の企業活動にフォーカスし、自身でオプション評価モデルを使って投資戦略や企業価値の評価ができるようになることを目指す。また、マネジメントによる企業価値創造力やM & Aに対する市場の評価を理論的に分析し、実際のケースを通じてM & Aの戦略・経済性についての洞察を深める。					
③授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> ① M & Aの経済性と事業価値 ② 資本構成と配当政策 ③ 企業金融とガバナンス論 ④ M & Aと買収防衛策の事例研究 ⑤ M & A戦略と経営資源 ⑥ オプションと企業価値 ⑦ 離散時間モデルとリスク中立化法 ⑧ 離散時間モデルのExcel演習 ⑨ Mertonモデルと負債・資産の市場価値 ⑩ 演習「TBSの買収防衛策と株主価値・負債価値」 ⑪ 演習「市場データに基づく負債・資産価値の測定」 ⑫ 事例研究「買収対象企業の財務分析」(ホットなM & A事例を取り上げます) ⑬ 事例研究「買収防衛策と株主価値・負債価値」 ⑭ 事例研究「マネジメントの経営価値創造力とイベントスタディ」 ⑮ ファイナンス理論の現状と課題 					
④テキスト・参考書等	<p>[テキスト] 毎回配布のレジュメによる。</p> <p>[参考文献]</p> <p>[1] 中岡英隆[2009]、「企業における資源開発事業の統合リスク評価」『ジャフィー・ジャーナル：ベイズ統計学とファイナンス』日本金融・証券計量・工学学会、179-205、朝倉書店。</p> <p>[2] 中岡英隆[2011]、「マネジメントの価値創造力とM & Aの評価」『ジャフィー・ジャーナル：バリュエーション』日本金融・証券計量・工学学会、114-133、朝倉書店。</p> <p>[3] リチャード・ブリーリー、スチュワート・マイヤーズ、藤井真理子他訳 [2002]、『コーポレート・ファイナンス 上・下』日経BP社。</p> <p>[4] 木島正明、中岡英隆、芝田隆志[2008]、『リアルオプションと投資戦略』朝倉書店。</p> <p>[5] ミシェル・クルーイ、ダン・ガライ、ロバート・マーク、三浦良造他訳[2004]、『リスクマネジメント』共立出版。</p>					
⑤成績評価方法	出席状況および授業への参加姿勢と課題発表・レポートにより評価する。					
⑥特記事項	概ね文系レベルの数学とEXCELの知見を前提とする。					

授業科目名	M	マネジメント・サイエンス特論 I	授業番号	P018	単位数	2
担当教員	森口 聡子		前期	金曜日	5 時限	
①授業方針・テーマ	<p>情報技術が支える経営活動において、各現場での短期的、オペレーショナルな問題に対する意思決定から、中長期的な戦略的レベルの課題への意思決定に及ぶまで、様々な意思決定が存在する。これらの意思決定では、科学的方法に基づく合理的な意思決定を導く経営科学（マネジメント・サイエンス）が重要な役割を果たしている。本講義では、経営科学の手法のうち、最適化技術を中心に紹介する。物流、在庫管理、SCM、スケジューリング、プロジェクト管理における意思決定での最適化（最小コスト、最大利益、不公平感最小化の計算など）を取り上げ、最適化技術による優位な意思決定の事例と、最適化アルゴリズムによる具体的な計算方法について説明する。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>経営科学における最適化技術とその周辺分野について、モデリング・定式化から、ソフトウェアによる求解について学習する。学習者はこの講義を通じて以下の知識や能力を習得することを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 最適化アルゴリズムによる優位な意思決定の事例（物流、スケジューリング、プロジェクト管理における意思決定での最適計算、最小コスト、最大利益など） 2) グラフ理論の基礎とグラフによる問題のモデル化 3) ネットワーク計画（最短路問題、最大流問題など） <p>この講義では、文科系出身の学生も履修できるように、初歩的な数学しか前提とせず、簡単な例を用いて出来るだけ平易な解説を行い、学生がこれらの手法の本質と最適化問題によるモデリングの有用性を理解できるよう心がける。</p>					
③授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義ガイダンス、経営科学における最適化技術の位置づけ 2. 最適化問題、最適化アルゴリズムの分類と計算複雑性理論 3. 最適化問題による数理モデル化（1）線形計画問題 4. 最適化問題による数理モデル化（2）整数計画問題 5. 最適化問題を解くアルゴリズム 6. 最適化ソルバー（ソフトウェア） 7. グラフ理論の基礎 8. ネットワーク最適化（1）最短路問題と最短路問題を解くダイクストラ法 9. ネットワーク最適化（2）最大流問題と最大流問題を解くフロー増加法 10. ネットワーク最適化（3）最大流問題の応用例、プロジェクト管理におけるクリティカルパス法 11. ネットワーク最適化（4）最小費用流問題と最小費用流問題を解く負閉路消去法 12. 実問題のモデリングと求解プロセスの演習（1）（グループワークを予定するが、受講者数により個人演習となることもある） 13. 実問題のモデリングと求解プロセスの演習（2） 14. 実問題のモデリングと求解プロセスのディスカッション 15. まとめ 					
④テキスト・参考書等	<p>毎回配付するレジュメをテキストとして用いる。</p> <p>【参考書】</p> <p>[1] 松井泰子、根本俊男、宇野毅明『入門オペレーションズ・リサーチ』東海大学出版、2008</p> <p>[2] 久保幹雄『組合せ最適化とアルゴリズム（インターネット時代の数学シリーズ）』共立出版、2000</p> <p>[3] Ravindra K. Ahuja, Thomas L. Magnanti, James B. Orlin『Network Flows: Theory, Algorithms, and Applications』Prentice Hall, 1993</p>					
⑤成績評価方法	<p>個人レポート、（グループワーク実施時）グループ成果物、プレゼンテーションおよび試験により評価する。</p>					
⑥特記事項	<p>【前提知識】 高校程度の数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ）を用いる。</p> <p>【自宅学習】 個人課題、グループワーク課題を課す。ディスカッション、プレゼンテーションの為の事前準備をしっかりと行ってくることを。</p>					

授業科目名	M	マーケティング・マネジメント特論	授業番号	P006	単位数	2
担当教員	水越 康介		前期	水曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	<p>マーケティング・マネジメントは、顧客との関係の創造と維持をその目的とする、市場志向の活動である。本講義では、マーケティング・マネジメントとしてマーケティングの基本的な枠組みを理解するとともに、研究上の論点を探ることを目標とする。</p> <p>本講義では、事前グループワーク、講義内での報告・ディスカッション、および講義後に各自レポート作成・提出を一つのサイクルとする。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>本講義では、マーケティングの基本的な枠組みの理解、および、マーケティング研究上の主要な論点を学ぶことができる。</p>					
③授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション、およびグループ設定 ② 市場を作り出す企業活動・価値形成・実現のマネジメント ③ マーケティング資源の配分・事業の定義 ④ 競争構造の理解 ⑤ 取引関係の理解 ⑥ 消費者行動の理解 ⑦ プロセスとしての競争 ⑧ 産業のライフサイクル ⑨ チャネル資産のマネジメント ⑩ 顧客関係のマネジメント ⑪ 産業財マーケティング ⑫ サービスマーケティング ⑬ ブランドのマネジメント ⑭ ブランド・エクイティ ⑮ マーケティング理論史 <p>※講義内容は初回オリエンテーションの状況をもとに、変更の可能性がある。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>石井淳蔵・栗木契・嶋口充輝・余田拓郎（2013）『ゼミナール マーケティング入門 第2版』日本経済新聞社。</p> <p>池尾恭一・青木幸弘・南知恵子・井上哲浩（2010）『マーケティング』有斐閣。</p> <p>Kotler, Philip & Kevin Lane Keller, Marketing Management 13e, Pearson Education, Inc., 2009.</p> <p>Solomon, Michael R., Consumer Behavior: Buying, Having, and Being, 11e, Pearson Education, Inc., 2014.</p>					
⑤成績評価方法	授業報告、およびレポート					
⑥特記事項						

授業科目名	M	マーケティング・サイエンス特論	授業番号	P004	単位数	2
担当教員	中山 厚穂		後期	火曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	現在の情報社会において、求められている能力の一つは、データの背後に存在している関係や傾向を読み解くための分析力です。特に、客観的なデータにもとづいた分析力がグローバルで情報があふれる社会において重要視されています。よって、本講義では、市場におけるマーケティング現象を理解するための代表的なモデルと、マーケティング意思決定に利用される方法論について学び、効果的な意思決定を行うための方法を身につけることを目指します。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	事例と例題を通じて、どのように各手法がSTP戦略やマーケティング・ミックスなどを立案するために活用されるのかについて体験することを目標とします。また、講義を通じて、市場におけるマーケティング現象をどのように読み解くことができるのかということについての理解を深めるとともに、データ分析を通じて客観性をもって論証するための数学的な論証能力を身につけることを目標とします。					
③授業計画・内容	<p>授業計画・内容</p> <p>第1回 ガイダンス：</p> <p>第2回 データの取得と整理</p> <p>第3回 マーケティング・サイエンスのモデル1：因果関係分析・予測手法</p> <p>第4回 マーケティング・サイエンスのモデル2：構造分析・ポジショニングのための手法</p> <p>第5回 マーケティング・サイエンスのモデル3：その他の手法</p> <p>第6回 市場反応分析：回帰モデル</p> <p>第7回 市場の発見と知覚マップ：因子分析</p> <p>第8回 市場セグメンテーション：クラスター分析</p> <p>第9回 製品開発：コンジョイント分析</p> <p>第10回 新製品の普及：バスモデル</p> <p>第11回 顧客の管理：RFM分析、分散分析、ロジスティック回帰分析</p> <p>第12回 市場反応分析2：離散選択モデル</p> <p>第13回 ブランドと属性の同時マップ：コレスポンデンス分析</p> <p>第14回 マーケットバスケットとクロスセリング：アソシエーション分析</p> <p>第15回 定性調査データの分析：潜在変数の構造分析</p>					
④テキスト・参考書等	<p>【テキスト】</p> <p>照井伸彦・佐藤忠彦「現代マーケティング・リサーチ-市場を読み解くデータ分析」有斐閣、2013。</p> <p>【参考文献】</p> <p>[1] 朝野熙彦「入門多変量解析の実際」、講談社サイエンティフィク、2000。</p> <p>[2] 古川一郎・守口剛・阿部誠「マーケティング・サイエンス入門」有斐閣アルマ、2011。</p> <p>[3] 池尾恭一・井上哲浩『戦略的データマイニング』、日経BP社、2008。</p> <p>[4] 中村博他「マーケット・セグメンテーション 購買履歴データを用いた購買機会の発見」、白桃書房、2008。</p> <p>[5] 豊田裕貴「ポジショニングの理論と実践」講談社、2013。</p>					
⑤成績評価方法	講義への出席・発表の内容・討論への参加程度、研究レポートにより評価します。					
⑥特記事項	<p>【自宅学習】</p> <p>輪読のための準備、実習課題、レポート課題を、適宜、自宅学習の課題として設定する予定である。</p> <p>【前提知識】</p> <p>履修にあたっては、高校レベルの数学と学部教養レベルの統計学についての基礎知識が前提知識として必要になります。</p>					

授業科目名	M	企業経済学基礎特論	授業番号	P026	単位数	2
担当教員	芝田 隆志		後期	水曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	本講義では、ミクロ経済学の基礎を概説する。ミクロ経済学では、個々の財・サービスの市場に焦点をあて、需要と供給から市場の資源配分メカニズムについて考察する。その基本にある考え方は、もし市場が完全に機能するならば、各経済主体が自分自身の利得（効用）を最大化するとき、社会全体でも最適な資源配分が同時に実現できるというものである。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本講義では、ビジネススクールで必要とされる経済学の知識を習得する。					
③授業計画・内容	<ul style="list-style-type: none"> ①イントロダクション（経済学とは、ミクロ経済学とマクロ経済学） ②消費者行動理論 1（効用最大化問題） ③消費者行動理論 2（支出最小化問題） ④消費者行動理論 3（異時点間の最適消費問題） ⑤生産者行動理論 1（利潤最大化と収入最大化アプローチ） ⑥生産者行動理論 2（利潤最大化と費用最小化アプローチ） ⑦生産者行動理論 3（利潤最大化問題まとめ、2投入量モデル） ⑧市場分析（市場需要関数、市場供給関数、部分均衡、一般均衡、余剰分析） ⑨厚生経済学の基本定理（厚生経済学の第1命題、第2命題、税、政府介入） ⑩市場の失敗 1（外部性、公共財） ⑪市場の失敗 2（自然独占） ⑫不完全競争市場（売手独占、買手独占、双方独占、寡占）。 ⑬不完全競争市場（クールノー、ベルトラン、シュタッケルベルグ） ⑭情報の非対称性（エージェンシー理論、逆選択、モラルハザード） ⑮その他の応用（コミットメント、フォーク定理） 					
④テキスト・参考書等	特に指定しない。毎回、レジメを用意する。なお、授業中には、参考文献を適宜紹介する。					
⑤成績評価方法	期末試験（70%）とレポート（30%）による総合評価					
⑥特記事項	大学教養（学部）レベルの経済数学および統計学の基礎を習得しておくこと。					

授業科目名	M	戦略的ゲーム理論特論	授業番号	P010	単位数	2
担当教員	渡辺 隆裕		前期	火曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	本講義の目的は大きく分けて2つあります。1つは日常のビジネスや政策決定の場に応用できる戦略的思考の技法としてゲーム理論を身につけることです。もう1つは他の学問分野（経済学・法と経済・社会学・政策科学・政治学）においてゲーム理論が用いられたときに、それを理解する事ができるようにゲーム理論の基礎を習得することです。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	完備情報（戦略形ゲーム・展開形ゲーム）を理解します。応用として、囚人のジレンマ、弱虫ゲーム、コミットメント戦略、信憑性のない脅し、オークション、メカニズムデザイン、交渉理論、などを学びます。複占競争とクールノー競争を学び、経営戦略につながる産業組織論の基本も勉強したいと考えています。					
③授業計画・内容	<p>初回も欠席しないように。</p> <p>①ガイダンス+ゲーム理論とは</p> <p>②支配戦略と囚人のジレンマ、最適反応戦略</p> <p>③ナッシュ均衡と混合戦略</p> <p>④ゼロ和ゲーム、さまざまなゲーム</p> <p>⑤展開形ゲームとバックワードインダクション、弱支配戦略と非支配ナッシュ均衡</p> <p>⑥交渉と最後通牒、実験経済学とゲーム理論</p> <p>⑦弱支配戦略と非支配ナッシュ均衡、オークション1</p> <p>⑧オークション2</p> <p>⑨多段階のゲームと戦略的投票</p> <p>⑩割当の設計とメカニズムデザイン</p> <p>⑪時間の割引と多段階交渉</p> <p>⑫繰り返しゲームと囚人のジレンマ</p> <p>⑬クールノー競争と不完全競争の理論</p> <p>⑭クールノー競争と不完全競争の理論-その応用</p> <p>15回目はまとめです。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>テキスト：渡辺隆裕著「ゼミナール ゲーム理論入門」（日本経済新聞社）宿題などは、この中から出題されますので購入してください。</p> <p>講義中のスライド：インターネットからダウンロードできるようにします。</p> <p>参考書：「図解雑学ゲーム理論」（2004）渡辺隆裕（著）ナツメ社</p>					
⑤成績評価方法	4回ほどのレポートで評価する予定です。					
⑥特記事項						

授業科目名	M	経営分析特論	授業番号	P012	単位数	2
担当教員	浅野 敬志		前期	金曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	授業のテーマは、「会計力」と「企業価値評価」である。会計力を身につけるために、財務三表と呼ばれる貸借対照表、損益計算書（包括利益計算書）、キャッシュ・フロー計算書の見方を確認し、成長性、収益性、安全性などの分析指標を確認する。続いて、企業価値評価の知識を習得するために、企業の将来業績を予測する方法や企業価値評価モデルを学習し、特定企業の価値評価を実際に行う。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	財務三表の読み方や収益性などの分析指標を理解する「会計力」および企業価値評価モデルや将来業績の予測方法を理解する「企業価値評価」の知識を習得することを目的とする。					
③授業計画・内容	第1回：オリエンテーション 第2回：財務諸表の概要と情報開示制度 第3回：貸借対照表の読み方 第4回：損益計算書・包括利益計算書の読み方 第5回：キャッシュ・フロー計算書の読み方 第6回：収益性の分析 第7回：安全性の分析 第8回：成長性の分析 第9回：不確実性によるリスク分析 第10回：企業価値向上とKPI 第11回：企業価値評価（1） 第12回：企業価値評価（2） 第13回：特定企業の価値評価を行う 第14回：総まとめ 第15回：単位認定レポート内容の説明					
④テキスト・参考書等	なし 講義資料は事前にkibacoにアップする。					
⑤成績評価方法	出席、課題、授業への取組み、単位認定レポートなどにより総合的に評価する。					
⑥特記事項	履修にあたり、日商簿記検定3級程度の知識があれば望ましい。					

授業科目名	M	管理会計特論	授業番号	P045	単位数	2
担当教員	細海 昌一郎		後期	土曜日	4 時限	
①授業方針・テーマ	<p>管理会計は企業内部の経営者に対して経営管理に必要な経済的情報を提供することを目的とした会計といえますが、その主要な役割は大きく2つに分けられます。1つは、合理的な経営上の意思決定を行えるようにする役割であり、もう1つは、意思決定されたことが達成されるようにコントロールする役割です。</p> <p>本講義では、こうした意思決定や業績評価に有効な管理会計技法のうち代表的なものをとり上げ、数値例を用いて解説・検討します。具体的には、管理会計の基礎を概説したのち、CVP分析、予算管理、分権組織の業績評価、業務的意思決定、戦略的意思決定、財務情報分析などをとり上げ、その基礎と応用について解説・検討する予定です。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>本講義を履修することによって、受講者は企業活動を客観的な会計数値で分析・評価する基本的な能力を身に付け、企業活動の改善点や目標を明確することが期待されます。</p>					
③授業計画・内容	<p>イントロダクション：講義内容の概略</p> <ol style="list-style-type: none"> ①管理会計の基礎 ②CVP分析(1)：利益計画とCVP分析 ③CVP分析(2)：原価分解 ④CVP分析(3)：固定費に関わる論点 ⑤CVP分析(4)：損益シミュレーションほか ⑥予算管理(1)：予算管理の基礎、固定予算と変動予算 ⑦予算管理(2)：予算差異分析、予算管理の行動科学的課題ほか ⑧分権組織の業績評価(1)：業績評価の基礎、事業部の業績評価指標（BSC等を含む）、内部振替価格 ⑨分権組織の業績評価(2)：EP(EVA)と業績評価、MVAについて ⑩業務的意思決定(1)：業務的意思決定の基礎、最適セールス・ミックス、LPとスループット会計 ⑪業務的意思決定(2)：在庫管理の基礎、経済的発注量（EOQ）とJIT ⑫戦略的意思決定(1)：戦略的意思決定の基礎、投資プロジェクトの評価方法 ⑬戦略的意思決定(2)：不確実性下の投資意思決定 ⑭財務情報分析(1)：企業価値評価法の基礎 ⑮財務情報分析(2)：企業価値評価法の応用 <p>※講義の内容・順序を一部変更することがあります。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>・テキストは、特に指定しません（レジュメ配布）。</p> <p>・以下、参考文献を示します（購入する必要はありません）。</p> <p>青木雅明『管理会計』同文館出版、2005。</p> <p>石塚博司共著『意思決定の財務情報分析』国元書房、1985。</p> <p>大塚宗春『意思決定会計講義ノート』税務経理協会、2008。</p> <p>加藤勝康・豊島義一『Q&A管理会計入門』同文館出版、2003。</p> <p>小林健吾『体系予算管理』東京経済情報出版、2003。</p> <p>佐藤紘光・齋藤正章『改訂新版管理会計』放送大学教育振興会、2006。</p> <p>知野雅彦・日高崇介『予算管理の進め方』日本経済新聞出版社、2007。</p> <p>平岡・大野・井出・細海『原価計算・工業簿記演習第3版』創成社、2003。</p> <p>門田安弘編著『管理会計レクチャー〔基礎編〕、〔上級編〕』税務経理協会、2008。</p> <p>山根節『新版ビジネス・アカウントティング・MBAの会計管理 - 』中央経済社、2008。</p> <p>Higgins, Robert C., Analysis for Financial Management, McGraw-Hill, Inc, 2003.</p> <p>Hornrgren, C. T., G. Foster, S. M. Datar, Cost Accounting -A Managerial Emphasis, Prentice-Hall, 2006.</p> <p>Hornrgren, C. T, G. L. Sundem, W. O. Stratton, Introduction to Management Accounting, Prentice-Hall, 2002.</p> <p>Shim, Jae K.,and Joel G. Siegel, Modern Cost Management & Analysis, Barron's Business Library, 2000.</p> <p>Shim, Jae K., and Joel G. Siegel, Budgeting Basics and Beyond Second Edition, John Wiley & Sons, Inc, 2005.</p>					
⑤成績評価方法	<p>・講義参加度と演習課題に基づいて評価します。</p>					
⑥特記事項	<p>・本講義では受講者の理解を深めるため、毎回、講義内容についてひと通り解説したのち、PCを用いた演習を行う予定です。</p> <p>・基本的な企業会計の知識と基本的なPCの能力を前提に行います。</p> <p>・PC演習用データを配布します。</p>					

授業科目名	M	財務会計特論	授業番号	P049	単位数	2
担当教員	野口 昌良		後期	水曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	<p>優良企業（組織）の選別・序列化にあたっては、企業業績に関する情報を提供する公表財務諸表を中心に分析が行われます。開示された情報を正確に把握するためには、財務諸表の機能と構造を十分に理解することが必要になります。</p> <p>この講義では、現代社会において財務諸表が果たす役割について考察し、その機能と構造を理解することを目標とします。国際財務報告基準（International Financial Reporting Standards ; IFRS）などとの比較を行い、わが国の会計（基準）をとりまく現状についても理解を深めたいと考えています。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業業績に関する情報を提供する財務諸表の機能と構造に関する理解 2. 1. をベースにした財務諸表の分析能力 3. 1. および 2. をベースにした日本の会計基準を取り巻く現状についての理解 					
③授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> ① 第1回目 ガイダンス ② 第2回目 財政状態計算書 ③ 第3回目 損益計算書および包括利益計算書 ④ 第4回目 キャッシュフロー計算書 ⑤ 第5回目 連結財務諸表 ⑥ 第6回目 資産評価基準 ⑦ 第7回目 金融商品会計 ⑧ 第8回目 棚卸資産会計 ⑨ 第9回目 固定資産会計 ⑩ 第10回目 退職給付会計 ⑪ 第11回目 税効果会計 ⑫ 第12回目 収益認識 ⑬ 第13回目 企業結合会計 ⑭ 第14回目 外貨換算会計 ⑮ 第15回目 まとめ 					
④テキスト・参考書等	教科書は指定しませんが、適宜講義資料を配布します。					
⑤成績評価方法	基本的に定期試験のスコアに準拠して評価する予定です。					
⑥特記事項	第1回目の講義において事前（プレ）テストを実施する予定です。その結果に基づいて講義内容を多少とも変更することを予定していますので、さしあたっては特別な前提知識を必要とはしません。					

授業科目名	M	証券投資特論	授業番号	P025	単位数	2
担当教員	磯貝 孝		後期	木曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	<p>本講義では、証券投資・資産運用に関する基本的概念・理論の習得に加え、証券投資に関連するリスク管理、ミクロ・マクロ経済分析などのより実践的な課題についても学習の対象とする。特に、ポートフォリオ投資のあり方、リスク・リターン分析の枠組み、投資戦略、リスク指標などの項目を重点的に扱う。</p> <p>また、リーマン危機を契機に表面化した様々な問題を理解する上で参考になるとと思われる最近の動きにも触れ、より深い理解を促す。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>証券投資に関する基礎的な概念・ツールの理解、実践的な活用能力の向上を目指す。</p> <p>具体的には、受講者が各種ビジネスの場で証券投資に携わる際に、リターンとリスクに関する適切なバランスを実現する上で役立つ知識・考え方の習得を重視する。</p>					
③授業計画・内容	<p>本講義では、証券投資理論の基礎、一般的な投資戦略・関連する情報分析の枠組みなどについて触れた上で、発展的な話題としてファットテール性などの金融リスクに関する事項やリスクに着目した最近の投資戦略に関する話題などについても扱う。</p> <p>講義の中では、全員参加のディスカッションも積極的に取り入れる予定であるほか、具体的な数値例に基づく計算課題にも取り組む予定。複数回のレポート提出課題あり。</p> <p>各講義の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ①証券投資とリターンの捉え方（債券、株式） ②分散投資とポートフォリオ、ポートフォリオのリスクとリターン ③ポートフォリオの最適化とリスク管理、平均分散モデル ④-⑤CAPM(Capital Asset Pricing Model)、効率的証券市場仮説、分離定理 ⑥-⑦裁定価格理論、ファクターモデル（シングル、マルチ） ⑧投資戦略（ベータ・アルファ、アクティブ運用、インデックス運用） ⑨企業価値の尺度、投資対象分析 ⑩証券市場とマクロ経済分析 ⑪オプション・デリバティブ、証券化の基礎 ⑫ファットテール性と様々なリスク尺度 ⑬-⑭リスクベースのポートフォリオ、スマートベータ戦略、より高度なリスク管理 ⑮補論 					
④テキスト・参考書等	<p>（参考書）</p> <p>小林・芹田「新・証券投資論Ⅰ」（日本経済新聞出版社）2009年 第1版 伊藤・荻島・諏訪部「新・証券投資論Ⅱ」（日本経済新聞出版社）2009年 第1版 ツヴィ・ボディ他、「証券投資」上・下、（日本経済新聞出版社） 2003年 第8版 井出・高橋「証券分析入門」（日本経済新聞出版社） 2005年</p> <p>一講義の内容に応じて、適宜参考資料を配布します。</p>					
⑤成績評価方法	<p>講義における議論への貢献・参加姿勢、課題・レポートの提出に基づく評価</p>					
⑥特記事項	<p>経済金融分析の基礎的理解、初歩的な統計学・数学の理解があることが望ましい。</p> <p>統計ソフトを用いた課題を行うことがある（具体的なツールについてはその都度指示する）。</p>					

授業科目名	M	経営データ分析特論	授業番号	P001	単位数	2
担当教員	山下 英明		前期	水曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	この授業では、データの背後に存在している関係や傾向を読み解くための分析力を養うことを目的とします。 具体的には、基本的な統計学や確率の考え方を学びます。 各手法を本質的に理解できるよう、式だけでなく図や言葉を用いて説明します。 また、Excelによる演習やグループ学習を通して、できるだけデータに触れられるよう考慮します。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	基本的な統計的手法の概念を本質的に理解し、論理的思考力を育みます。 Excelを用いて実際のデータを分析する技術を習得します。 統計的手法が経済学や経営学で実際に使われているケースを学びます。 グループ学習を通して、コミュニケーション能力、問題解決能力を習得します。					
③授業計画・内容	第1回：経営データ分析の概要 第2回：確率 第3回：確率変数と確率分布 第4回：データの記述 平均と分散 第5回：二項分布と正規分布 第6回：標本分布 第7回：統計的推定 第8回：仮説検定 第9回：回帰分析 第10回～第12回：ケーススタディ、グループ発表 第13回～第15回：グループ学習、グループ発表 (予習、復習) 予め教科書を読み、理解できなかった点の整理 教科書のケーススタディの内容をわかりやすく説明する発表準備 Excelを用いたデータ分析の演習課題 各自の興味あるデータの分析					
④テキスト・参考書等	【教科書】 東北大学統計グループ『これだけは知っておこう！統計学』有斐閣ブックス、2002年。 【参考書】 牧本直樹『ビジネスへの確率モデルアプローチ』朝倉書店、2006年。 東京大学教養学部統計学教室〔編〕『基礎統計学I 統計学入門』東京大学出版会、1991年。 宮川公男『基本統計学』有斐閣、1993年。 管民郎『Excelで学ぶ統計解析入門』オーム社、2013年。					
⑤成績評価方法	計算問題課題、Excel課題、グループ学習によって評価します。					
⑥特記事項	履修者数によって、授業の進め方を変更することがあります。 高校程度の数学知識は身に付けていることを前提とします。					

第 II 群 科 目

授業科目名	M	国際経営特論	授業番号	P052	単位数	2
担当教員	森本 博行		後期	土曜日	1 時限, 2 時限	
①授業方針・テーマ	<p>国際経営は理論として、(1) 企業はなぜ国際化するのか、(2) 進出国市場において、その国の企業にとって有利な産業政策や有力な競合企業が存在するのに、なぜ、市場において持続的に競争優位を獲得して収益をあげることができきるのか、を研究します。</p> <p>MBAとして国際経営について必要な知識の修得をめざします。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>国際経営特論は、「理論と実務の架橋」を目的として、グローバルに企業活動を展開する企業を事例にして、企業特有の競争優位性の移転、多国籍企業の国際戦略の特徴について学習する。また、日本で活躍する外資系多国籍企業の経営についても触れる。</p> <p>将来、企業において、国際経営戦略や国際経営管理業務に就くことをめざす人にとって、必要な基礎知識を習得できる。</p>					
③授業計画・内容	<p>(1) 国際経営論では何を学ぶのか ・ 武田薬品の経営の国際化</p> <p>(2) 国際化の動機 ・ 味の素の経営の国際化</p> <p>(3) 国際経営戦略と競争優位 ・ ファーストリテイリング (ユニクロ) の経営の国際化10/31</p> <p>(4) 発展途上国の産業政策と日本企業の戦略的行動 ・ サムスンの企業成長とグローバル化</p> <p>(5) 技術移転と日本の生産システムの海外移転 ・ 台湾松下電器 (パナソニック) の経営 ・ トヨタ自動車の経営の国際化</p> <p>(6) グローバル経営組織と海外子会社経営 ・ 資生堂のグローバル化とグローバル経営組織の発展 ・ トヨタ・タイランドの経営</p> <p>(7) グローバルM & A と戦略的提携 ・ 日本における外資系多国籍企業の経営</p> <p>(8) 異文化経営の課題 ・ 期末レポート</p>					
④テキスト・参考書等	<p>「国際経営」(吉原英樹 有斐閣)「グローバル経営入門 浅川和宏 日本経済新聞社」「グローバルビジネス戦略」(新宅純二郎ほか 白桃書房)「アジアにおける市場性と産業競争力」(藤澤武史ほか 日本評論社)「国際マーケティング」(小田部正明ほか 中央経済社)「グローバル企業の市場創造」(江夏健一ほか 中央経済社)</p>					
⑤成績評価方法	<p>出席状況と期末レポートによって総合的に評価する。</p>					
⑥特記事項	<p>「ビジネス・イノベーション」の科目と交互に、隔週8回の授業を予定しています。日程表にご注意ください。</p>					

授業科目名	M	組織行動特論	授業番号	P019	単位数	2
担当教員	高尾 義明		後期	火曜日	6 時限	
①授業方針・テーマ	組織行動論の考察対象は、組織における人間行動及び集団行動です。組織行動論はミクロ組織論と呼ばれることもあるように、微視（ミクロ）的な視座から組織を捉えます。本講義では、組織行動論の代表的な概念について理論的に解説するとともに、それらの応用の可能性について検討を行います。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本講義で修得できる理論枠組みは、組織における人間行動・集団行動の説明・予測・方向付けに役立てることができます。また、組織のメンバーとしてどのように組織とかわかり、ふるまうべきかを内省する手がかりとなる枠組みの獲得を目指します。					
③授業計画・内容	<p>イントロダクション</p> <p>ワーク・モチベーション</p> <p>組織における公正</p> <p>組織市民行動</p> <p>リーダーシップとフォロワーシップ</p> <p>リーダーシップ開発</p> <p>コミュニケーション</p> <p>組織内ネットワーク</p> <p>集団行動とチーム</p> <p>組織社会化</p> <p>組織と個人の関係</p> <p>組織とキャリア</p> <p>職場学習</p> <p>メンタリング／コーチング</p> <p>総合ディスカッション</p>					
④テキスト・参考書等	<p>各回のリーディング・アサイメントを事前に配布します。</p> <p>参考書</p> <p>・二村敏子編（2004）『現代ミクロ組織論』有斐閣</p>					
⑤成績評価方法	発表・発言などによる授業に対する積極的貢献（85%）および学期末レポート（15%）によって評価します（詳細は第1回に説明します）。					
⑥特記事項						

授業科目名	M	ヒューマン・リソース・マネジメント特論	授業番号	P044	単位数	2
担当教員	西村 孝史		後期	月曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	この授業では、日本の人事に欠けていることが多い戦略人材マネジメントの考え方を身につけることを重視します。戦略人材マネジメントとは、企業の競争力を高め、企業業績に連結する経営活動の一環として人材マネジメントを捉える視点です。 また、この授業では、理論的にも、実務的にも戦略人材マネジメントの視座に基づいて人事管理システムを考察できるように、理論的な学習のほかにもケース分析、グループ発表、個人のフィールドリサーチなど、多様な方法を用いて分析手法を磨いていくことも重視します。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	人材マネジメント論の基礎的な概念・枠組み・理論を学習し、それらの概念や枠組みを実際の企業や組織に応用することで、最終的には、人事管理システムの分析・評価・デザインができるようになることを目的とします。 また、他社の「ベストプラクティス」を探ることで満足してしまうのではなく、自らの会社で何が起きているのかを推論する力を養うことを目的とします。					
③授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の説明と参加者の確認：人材マネジメントとは何か？ 2. SHRM論：レクチャーとディスカッション 3. ケース分析（1） 4. インセンティブシステムと人事システムの基本思想 5. 人材の評価・公正性 6. ケース分析（2） 7. 能力開発・経営者人材（BU長）の育成 8. ケース分析（3） 9. マネージャの役割・職場マネジメント 10. 人事部の役割 11. 人材ポートフォリオ 12. 多様な人材と働き方、働きがいのある会社 13. ゲストスピーカー※どこに回に入れるかは未定 14. グループ発表 					
④テキスト・参考書等	<ol style="list-style-type: none"> 1) kibaco上に配布するリーディングパッケージ（詳しくは初回に説明：kibacoに掲載） 2) ケース（個人で購入をして下さい） 〈参考書〉 守島基博（2004）『人材マネジメント入門』日本経済新聞社。					
⑤成績評価方法	≪予定：初回に説明します≫ <ol style="list-style-type: none"> 1) フィールドワークに基づくグループレポート（50%） 2) ケース分析に基づいた個人レポート、3つ（全部で40%：内訳①15%、②10%、③15%） 3) クラス討論への参加（10%） 					
⑥特記事項	授業で扱うケースは、著作権が保護された上で販売されているため、各自でBookparkから購入をしてください。 http://www.bookpark.ne.jp/about/partner.asp					

授業科目名	M	生産戦略特論	授業番号	P053	単位数	2
担当教員	松尾 隆		後期	土曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	<p>生産（ここでは、製造に限定せずサービスを含む）と戦略との関係について議論していく。特に組織能力を重視した戦略論を中心に扱う予定である。したがって、必ずしも生産に特化した内容ではなく、オペレーショナルな企業活動がどのように競争優位に結びつくのか、その限界はどこにあるのかを考えることが主たる目的である。</p> <p>毎回の講義では、事前にその回のテーマに即したレポートを提出してもらう。講義は、そのレポートに基づいたディスカッションを中心に行う。</p> <p>製造業における生産機能に限定せず、オペレーション機能や組織能力による競争優位獲得に興味を持つ方に役に立つ内容となることを目指す。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>組織能力という考え方に立脚して、日常的なオペレーション活動と競争優位の関係を理解し、実際の業務運営や戦略立案に結び付けられるようになることを目指す。</p>					
③授業計画・内容	<p>① 組織能力と競争優位 ② 製品開発プロセス ③ デザイン戦略 ④ サプライチェーン ⑤ 製品開発の国際化 ⑥ 生産プロセスと組織能力 ⑦ 生産能力を源泉とした競争優位の現在性 ⑧ サービスプロセスと組織能力 ⑨ アーキテクチャ ⑩～⑮ 発展的な内容を講義の進展に応じて扱う</p>					
④テキスト・参考書等	<p>特に教科書は指定せず、毎回、文献を配布する。多くは研究論文を取り上げる予定なので、基礎知識に不安がある場合は、藤本隆宏『ものづくりの経営学』光文社新書などを事前に読んでおくが良い。</p>					
⑤成績評価方法	<p>毎回のレポートの内容と講義中の発言による</p>					
⑥特記事項						

授業科目名	M	ベンチャービジネス特論	授業番号	P056	単位数	2
担当教員	高橋 勅徳		前期	土曜日	2時限	
①授業方針・テーマ	ベンチャービジネスに関する研究は、この10年の間に、単に新奇性の高い事例を記述する研究から、明確な理論的フレームワークと調査方法論を備えた研究領域として、急速に発展しています。そこには、制度派組織論をはじめとした組織論の最先端の議論や、社会構成主義、言説分析、アクターネットワークセオリーといった方法論的展開のエッセンスが含まれています。 そこで本講義では、近年のベンチャービジネスに関する最先端の研究成果を踏まえた上で、起業やイノベーションに関する研究論文を作成する上で必要な、学説史と方法論について、必読文献の精読を通じて学んでいくことにします。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	この講義では、ベンチャービジネスをテーマに論文を作成する上で必要な、理論と調査方法論を身につけることを目標とする					
③授業計画・内容	この講義では、企業家研究の各議論について、下記のテーマに基づいた文献の精読を実施する。 ①企業家とは何か？ シュムペーターの企業家モデル ②企業家とネットワーク ③企業家と正当化 ④企業家と法規制 ⑤企業家研究の進化論的アプローチ ⑥企業家と地域集積 ⑦企業家と組織① 社内ベンチャー ⑧企業家と組織② ベンチャー企業の管理 ⑨企業家のと業界標準 ⑩制度派組織論における企業家概念 ⑪2000年代の企業家研究① ソーシャルイノベーション企業家の方法論的展開④ 言説分析 ⑫2000年代の企業家研究② まちづくり論 ⑬まとめ：企業家研究のフロンティア					
④テキスト・参考書等	桑田耕太郎・松嶋登・高橋勅徳（編）『制度的企業家』有斐閣 講義に際して必要なテキスト・参考書については、その都度指定する。					
⑤成績評価方法	授業への参加および議論への貢献度による。					
⑥特記事項	特になし。					

授業科目名	M	ビジネスイノベーション特別演習	授業番号	P039	単位数	2
担当教員	高橋 勅徳		後期	土曜日	1 時限, 2 時限	
①授業方針・テーマ	<p>これまでビジネスイノベーションは、まったく新しいテクノロジーやアイデアの下でイノベーションを主導する、特殊なパーソナリティの持ち主たる企業家と共に語られてきました。確かに、巷間に溢れる雑誌・新聞・TVからの情報を見聞きする限り、ビジネスイノベーションとはそのような現象として理解できるかもしれません。</p> <p>しかしながら、そのように現象を捉えてしまうと、ベンチャービジネスとは通常のビジネス実践から乖離した、特殊な存在となります。しかし、イノベーションを実現するためには、単なるテクノロジー／アイデアや企業家の有無という問題ではなく、顧客、同業他社、関係会社、銀行など様々な主体と関係を取り結び、自社にとって有利な方向へと導いていく社会関係のマネジメントが求められます。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>この講義では、ベンチャー企業の創出、新技術／サービスの普及、既存企業（行政組織を含む）のイノベーションのプラクティカルな知識を、具体的なケーススタディに基づくディスカッションを通じて学びます。</p>					
③授業計画・内容	<p>この講義は隔週2コマ連続で開講します。1コマ目に検討するベンチャー企業についてのケースディスカッションを行い、2コマ目にケースに取り上げた企業経営者による講演とディスカッションを実施します。</p> <p>本年度の出講予定者については10月中にアナウンスしますが、参考までに昨年度の出講者を記載しておきます。</p> <p>①新規事業開発を生み出す組織の成長と衰退：ヤマハ（株）事業開発部 yamaha+推進室 主任 吉田 智之</p> <p>②業界規格の取得とイノベーションの遂行：株式会社小島工務店 代表取締役 小島 智明</p> <p>③制度を利用した「しまおこし」：隠岐郡海士町 町長 山内道雄</p> <p>④バイオベンチャーのエコシステム：シミックホールディングス株式会社 BIU事業企画部 マネージャー 木川大輔</p> <p>⑤社会企業家による障がい者ビジネスの展開：特定非営利活動法人エクストラメーションスタイル 統括マネージャー 吉野智和</p> <p>⑥新産業の創出とベンチャー企業の管理：株式会社ベアーズ 専務取締役 高橋ゆき</p>					
④テキスト・参考書等	<p>テキスト・参考書については、必要に応じてその都度指定する。</p>					
⑤成績評価方法	<p>ディスカッションへの参加および議論への貢献度による。</p>					
⑥特記事項	<p>原則隔週で2コマ連続の、変則開催とします。</p>					

授業科目名	M	信用リスク特論	授業番号	P016	単位数	2
担当教員	村内 佳子		後期	水曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	<p>近年の企業を取り巻く社会・経済は目まぐるしく変化しており、政策変更やマーケット変動も著しい。企業を存続し収益を確保するには、事業リスクを予め把握し、リスクの予兆を推測し、タイムリーに事業計画を見直す柔軟な意思決定、すなわちリスク・マネジメント機能が必要となる。本講座では、代表的なリスクであるクレジット・リスクをテーマに、リスクが発生すると国や企業経営に具体的にどのような影響があるのかを、実際の事例を使って分かりやすく解説する。</p> <p>クレジット・リスクとは、企業の倒産や個人の住宅ローンの返済不能などによって被る直接的な損失リスクの他、企業の信用力低下によって保有している株式の株価が下がるなどの間接的な損失リスクも含んだ概念である。クレジット・リスクを計量評価するには、デフォルト率、回収率のパラメータ推定、あるいは流動性リスクの考慮が必要となる。</p> <p>本講座では、例えば今後3年間にGDPが下降するというシナリオを想定した場合、取引相手先が倒産するリスクの計量方法を学び、リスク発生に対応できるようにするにはどのような対策が必要かを考察する。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>本講座の到達目標は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信用リスクの定義とリスク計量に必要な基礎知識、リスクの予兆分析の考え方を習得する。 ・代表的なリスク評価モデルを理解し、Excelでの演習などによりモデル実装ができるようになる。 ・リスクシナリオを想定し、リスク計量とその結果分析のレポート作成ができるようになる。 					
③授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 信用リスクとは <ol style="list-style-type: none"> ①信用リスクと市場リスクの違い、②信用リスク評価モデルの種類、③デフォルト確率と存続（生存）確率、④ハザード率とハザード関数 割引債価格と現在価値① <ol style="list-style-type: none"> ①無リスクな割引債価格の評価モデル、②信用リスクのある割引債の評価モデル、③リスク調整済み割引率による信用リスクの表現 割引債価格と現在価値② <ol style="list-style-type: none"> ①確実性等価係数と信用リスク・スプレッド、②多期間モデルによる割引債の評価 利付債の評価 <ol style="list-style-type: none"> ①利付債の評価とリスク中立確率、②マルチンゲールとは 金利とイールド・スプレッド <ol style="list-style-type: none"> ①単利と複利、②スポット・レートとフォワード・レートの計算、③イールド・スプレッドと信用リスク 金融商品の価格付け <ol style="list-style-type: none"> ①定義関数とキャッシュフローのイベント表現、②条件付き確率と生存確率 デフォルト確率の推定 <ol style="list-style-type: none"> ①デフォルト実績からのデフォルト確率の推定、②線形のデフォルト確率推定モデル、③モデルの良さ（適合度）の判定 非線形のデフォルト確率推定モデル <ol style="list-style-type: none"> ①ロジット回帰モデルによる倒産確率の推定、②リスク・ファクターが2つ以上ある場合の倒産確率の推定 コール・オプションとしての株式 <ol style="list-style-type: none"> ①構造モデルを適用し、株価を自己資本価値、行使価格を負債額として、株価をコールオプションとして評価 デフォルト確率の推定 <ol style="list-style-type: none"> ①リスク中立的なデフォルト確率と、実際のデフォルト確率、②デフォルト距離（DD）の計測 プット・オプションとしての債券 <ol style="list-style-type: none"> ①信用リスク・スプレッドの計測方法 回収率とデフォルト時損失率 <ol style="list-style-type: none"> ①回収率の測定方法、②回収率の期間構造とデフォルト確率との関係 誘導モデル <ol style="list-style-type: none"> ①DSモデルによる倒産確率の推定、②ハザード・プロセスによる倒産確率の推定、③ワイブル分布による倒産確率の推定 格付推移確率と吸収マルコフ連鎖 <ol style="list-style-type: none"> ①格付推移確率行列から求めた倒産確率の期間構造 CreditMetrics <p>現在最も代表的な信用リスク計測モデルであるCreditMetricsの基本的な考え方を説明する。CreditMetricsをExcel等で実装する。</p> 					
④テキスト・参考書等	“Excelで学ぶ信用リスク”、青沼・村内、金融財政事情研究会（きんざい）。					
⑤成績評価方法	出席状況およびレポートによる総合評価					
⑥特記事項	実務上の例題を用いながら、金融商品の評価方法、金融商品によるリスク回避方法について解説する。Excelを利用するので、Excelの基礎知識は持っているということを前提とする。					

授業科目名	M	マーケティング・サイエンス特別演習	授業番号	P031	単位数	2
担当教員	尾崎 幸謙		後期	火曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	本授業では、マーケティングサイエンスで必須となるデータ解析・統計学の基礎を学びます。数学的な話も含まれますが、文科系学部出身者にも配慮した授業内容を心がけます。シグマの計算程度が分かれば十分です。様々なデータを扱いながら、統計学の楽しさ・奥深さを伝えたいと思います。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	各種データ分析方法の考え方の理解、データ分析結果の読み取り、簡単なデータ分析の実行					
③授業計画・内容	第1回 社会科学研究における統計学、代表値 第2回 散布度 第3回 共分散と相関1 第4回 共分散と相関2 第5回 単回帰分析1 第6回 単回帰分析2 第7回 相関と因果、仮設検定1 第8回 仮設検定2 第9回 平均値の差の検定1 第10回 平均値の差の検定2、 χ^2 乗検定 第11回 Rの基礎 第12回 クラスター分析 第13回 重回帰分析1 第14回 重回帰分析2 第15回 主成分分析					
④テキスト・参考書等	山田剛史・村井潤一郎(2004)「よくわかる心理統計」ミネルヴァ書房 足立浩平(2006)「多変量データ解析法」ナカニシヤ出版					
⑤成績評価方法	授業への参加状況と適宜実施するレポートに基づいて成績を評価します。					
⑥特記事項	統計学の勉強では分析のためのソフトウェアが必要です。本授業では、エクセルおよびRを使用します。Rについては初心者を想定しています。					

授業科目名	M	経営数理特論	授業番号	P023	単位数	2
担当教員	室田 一雄		後期	水曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	機械学習の数理的な側面に重点をおいて概説する。講義では基本的にテキストに沿って説明するが、テキストに含まれていない重要な話題であるサポートベクターマシンについても詳しく講義する。機械学習では、統計学や最適化の数学が多用されるので、それらについて、適宜、基礎的なことを整理して提示する。数式のもつ本質的な意味をできるだけ図や言葉で伝えるようにし、今後の研究活動や実務において、機械学習の考え方が活かせるような形を目指す。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	科学的方法論として近年進展の著しい機械学習について、その枠組みと考え方を理解し、さらに機械学習の基礎を成す数理的基礎を理解する。それによって、研究活動や実務における数理的解析力と問題解決力を習得する。					
③授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、機械学習へのイントロダクション 2. 最小2乗法（線形回帰、正規方程式） 3. 機械学習の基礎概念（汎化能力、過学習、交差確認、正則化） 4. 確率の基礎（確率分布、条件付き確率、期待値、正規分布） 5. 最尤推定法（推定量、一致性、不偏性、勾配法） 6. パーセプトロン（分類、オンライン学習、確率勾配法） 7. 最適化の基礎（凸計画、双対問題） 8. サポートベクターマシーン（1）：定式化 9. サポートベクターマシーン（2）：カーネル法 10. ロジスティック回帰（学習モデルの評価、ROC曲線、AUC） 11. k平均法（クラスタリング、教師なし学習） 12. EMアルゴリズム（混合分布） 13. ベイズ推定（ベイズの定理、事前分布、事後分布） 14. 機械学習の最近のトピック 15. 演習について討論と講評 					
④テキスト・参考書等	<p>【テキスト】</p> <p>中井悦司：ITエンジニアのための 機械学習理論入門、技術評論社、2015。</p> <p>【参考書】</p> <p>中川裕志：機械学習、丸善出版、2015。</p> <p>C. M. ビショップ著、元田浩他訳：パターン認識と機械学習（上、下）、丸善出版、2012。</p> <p>杉山将：機械学習のための確率と統計、講談社、2015。</p> <p>田村明久、村松正和：最適化法、共立出版、2002。</p> <p>藤澤克樹、後藤順哉、安井雄一郎：Excelで学ぶOR、オーム社、2011。</p> <p>S. Boyd and L. Vandenberghe: Convex Optimization, Cambridge University Press, 2004.</p>					
⑤成績評価方法	出席状況とレポート課題により評価する。					
⑥特記事項	<p>【前提知識】</p> <p>統計学と最適化理論の基礎事項を一通り習得していることが望ましい。</p>					

授業科目名	M	ロジカル・ライティング I	授業番号	P024	単位数	2
担当教員	照屋 華子		前期	木曜日	5 時限, 6 時限	
①授業方針・テーマ	<p>この授業では、ロジカル・ライティング—論理的に、分かりやすく書くこと—の基本手法を体系的に学びます。</p> <p>自分の考えを説得力をもって分かりやすく伝えるスキルは、あらゆる問題解決において不可欠です。特にビジネスでは、重要な事柄ほど文書化が求められることに加えて、今日ではコミュニケーション手段としてメールがますます重要になっています。さらに、協働するチームや組織のメンバーがロジカル・ライティングのスキルを共有すれば、情報伝達・意思決定のスピードアップや精度向上にもつながります。ロジカル・ライティングはビジネス・パーソンの必須科目と言えるでしょう。</p> <p>ロジカル・ライティングは、トレーニングによって習得できる「技術」であり、トレーニングでは準備・組み立て・表現のスキルをバランスよく身につけることが重要です。授業では実践的な演習を繰り返し行い、トレーニングに取り組めます。</p> <p>効果的なビジネス文書を効率的に書く力をつけたい方はもちろん、学習・研究活動でのライティング・スキルの向上を図りたい方の参加も歓迎します。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ロジカル・ライティングの基本手法を理解し、その使い方を習得します。 <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションの準備：ビジネス文書の基本の型とはどのようなものか、またそれを効率的に書くために必要な準備を理解する。 メッセージの組み立て：ロジカル・シンキングをベースにしたメッセージ構成法を理解する。この構成法は口頭説明や英語のメッセージ構成にも活用できる。 メッセージの表現：組み立てたメッセージを速く正確に読みとってもらえるための表現方法を、記述スタイルと日本語表現の両面から学ぶ。ビジネス文書で特に重要な組み立てを視覚化する記述スタイルにフォーカスする。 自分のライティングの強化点を具体的に見出し、それを意識して日々の文書作成において準備・組み立て・表現の要点を実行できるようになることを目指します。 					
③授業計画・内容	<p>各回、講義で解説した内容を、演習で確認・実践していきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーションとメッセージ組み立ての準備 <ul style="list-style-type: none"> 講義のねらいとロジカル・ライティングの全体像 コミュニケーションの仕組みとメッセージの基本の型 コミュニケーションの準備として確認すべき2つの事柄 メッセージの組み立て（1）「本論—思考の整理」 <ul style="list-style-type: none"> 本論の要素 グループ化とMECE So What?/Why So? メッセージの組み立て（2）「本論—論理構成」 <ul style="list-style-type: none"> 論理の基本構造と並列型・解説型 要旨の要素、および結論が充足すべき要件 論理構成の手順 メッセージの表現（1）「視覚化記述スタイル」 <ul style="list-style-type: none"> 文書の心臓部とWhy So?の流れ 見て分かるように表現するためのテクニック メッセージの組み立て（3）「導入部」 <ul style="list-style-type: none"> 文書の導入部の役割 導入部に必要な要素 メッセージの表現（2）「日本語表現」 <ul style="list-style-type: none"> 分かってもらうための基本動作 具体性・簡潔さ・論理性を支える日本語表現 ⑦～⑧ 総合的な演習とまとめ <p>※授業の進捗状況によって、予定変更もあり得ます。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>テキスト：照屋華子著『ロジカル・ライティング』東洋経済新報社、および配布資料</p> <p>参考書：照屋華子・岡田恵子著『ロジカル・シンキング』東洋経済新報社</p> <p>その他、必要に応じて指定します。</p>					
⑤成績評価方法	<p>授業への参加・貢献を30%、課題・期末レポートの成績を70%の割合で評価します。</p>					
⑥特記事項						

授業科目名	M	ロジカル・ライティングⅡ	授業番号	P027	単位数	2
担当教員	照屋 華子		後期	木曜日	5 時限, 6 時限	
①授業方針・テーマ	<p>この授業は、ロジカル・ライティング—論理的に、分かりやすく書くこと—の実践コースです。授業では、初回に「ロジカル・ライティング」の基本手法を概説します。2回目以降の各回では、ビジネス・パーソンが書く頻度が高い、異なるタイプの文書作成・再構成に取り組み、タイプ別に特に重要な組み立て・表現のポイントを学びます。</p> <p>授業には「課題提出→フィードバック→改訂版の提出→フィードバック」というプロセスや、履修者の方が実際に作成した文書の検討なども組み込むことによって、ロジカル・ライティングの理解を深めます。「ロジカル・ライティング」の実践力を磨きたい方の参加を期待します。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. パワーポイント形式の資料の要旨、報告書、提案書、メール・レター、記事・論文を取り上げ、それぞれについて3点を学びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・基本の型とは ・基本の型を作るためには、ロジカル・ライティングの基本手法の特に何が重要か ・基本手法以外に、どのような視点を加えるとよいか 2. ドラフトを内容・構成、および表現の両面で推敲するセルフ・エディティングの手順とチェック・ポイントを学びます。 					
③授業計画・内容	<p>各回、講義で解説した内容を、演習で確認・実践していきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①オリエンテーションと基本手法の概説 <ul style="list-style-type: none"> ・講義のねらいと全体像 ・ロジカル・ライティングの基本手法 ②パワーポイント資料の要旨の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・メッセージを確実に伝えるための4つのチェック ・要旨作成のステップと勘所 ③ワード形式の報告書の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・論理パターン組み立ての手順と勘所 ・組み立てを視覚化する記述スタイルの要点 ④提案書の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・空・雨・傘のストーリー構成とGoverning Thought ・構成上の勘所 ・導入部の要点 ⑤ビジネスメール、ビジネスレターの作成 <ul style="list-style-type: none"> ・「見て分かる」メールの要件 ・ビジネスレターの決まりごと ・好感度の高い日本語表現 ⑥記事・論文の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・汎用性の高い構成と構成上の要点 ・段落記述スタイルの要点 ・接続表現の使い方 ⑦セルフ・エディティング（1） <ul style="list-style-type: none"> ・セルフ・エディティングの全体像と手順 ・構成のエディティングの要点 ⑧セルフ・エディティング（2） <ul style="list-style-type: none"> ・表現のエディティングの要点 <p>※授業の進捗状況によって、予定変更もあり得ます。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>テキスト：照屋華子著『ロジカル・ライティング』東洋経済新報社、および配布資料</p> <p>参考書：[1] 照屋華子・岡田恵子著『ロジカル・シンキング』東洋経済新報社 [2] 木下是雄著『理科系の作文技術』中公新書 [3] 野矢茂樹著『論理トレーニング』産業図書 [4] 中村明著『日本語 語感の辞典』岩波書店 [5] 蒲谷宏・川口義一・坂本恵『敬語表現』大修館書店</p> <p>その他、必要に応じて指定します。</p>					
⑤成績評価方法	<p>授業への参加・貢献を30%、課題・期末レポートの成績を70%の割合で評価します。</p>					
⑥特記事項	<p>履修にあたって前提知識は必要ありません。</p> <p>ただし、「ロジカル・ライティングⅠ」を未修の場合は、テキスト『ロジカル・ライティング』を通読してご参加下さい。</p>					

授業科目名	M	経営学演習（グループ研究Ⅰ）	授業番号	P061	単位数	2
担当教員	オムニバス		前期	土曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	経営学の多様なアプローチを一望し、研究法の基礎を学ぶ。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	「経営組織・HRM・意思決定」、「経営戦略」、「マーケティング」の各分野について、知識と研究法の基礎を習得する。					
③授業計画・内容	教員が交代で授業をする。適宜グループ研究をおこなう。					
④テキスト・参考書等	随時案内する。					
⑤成績評価方法	授業への貢献、研究報告等による。					
⑥特記事項	この科目は単独での履修はできない。必ず「経営学演習（グループ研究Ⅱ）」と同時に履修すること。					

授業科目名	M	経営学演習（グループ研究Ⅱ）	授業番号	P062	単位数	2
担当教員	オムニバス		前期	土曜日	4時限	
①授業方針・テーマ	経営学の多様なアプローチを一望し、研究法の基礎を学ぶ。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	「経営組織・HRM・意思決定」、「経営戦略」、「マーケティング」の各分野について、知識と研究法の基礎を習得する。					
③授業計画・内容	教員が交代で授業をする。適宜グループ研究をおこなう。					
④テキスト・参考書等	随時案内する。					
⑤成績評価方法	授業への貢献、研究報告等による。					
⑥特記事項	この科目は単独での履修はできない。必ず「経営学演習（グループ研究Ⅰ）」と同時に履修すること。					

授業科目名	M	経営学演習（財務戦略）	授業番号	P008	単位数	2
担当教員	松田 千恵子		前期	火曜日	5時限, 6時限	
①授業方針・テーマ	今日の経営環境においては、事業の意思決定はファイナンスを無視して行い得るものではなく、また財務的な意思決定には事業状況への深い洞察が益々必要とされるようになっている。従って、経営戦略及びコーポレートファイナンス双方の理論を有機的に結びつけ、統合された知識に基づき、実践的な経営判断を行っていくことは、これからの経営者にとって必須の能力である。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	この授業では、かかる問題意識に基づき、企業経営における財務戦略、資本市場の動向とその背景にある考え方の理解に主眼におき、実践的なコーポレートファイナンスの活用と、その経営戦略との関係性について習得することを目的とする。本講義は、実例を多く取り上げながら行うため、2時限連続の講義とする。					
③授業計画・内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 企業を巡る環境変化-コーポレートファイナンスと経営戦略 ② コーポレートファイナンスの要諦（1）-企業に対する期待収益率とその実現 ③ コーポレートファイナンスの要諦（2）-最適資本構成と信用リスク ④ コーポレートファイナンスの実践（3）-現在価値と企業及び投資の評価 ⑤ 企業価値の評価と向上（1）-財務分析と指標の意味 ⑥ 企業価値の評価と向上（2）-将来予測とキャッシュフロープロジェクション ⑦ 資本政策（出資）の実務-IPO、M & A、LMBO、投資ファンド ⑧ 負債政策（融資）の実務-銀行借入、社債、格付、ターンアラウンド 					
④テキスト・参考書等	講義中に適宜指示する。					
⑤成績評価方法	レポートの提出を持って行う。ディスカッションを多く行うため、積極的な参加、授業への貢献についても加味する。					
⑥特記事項	特に無し					

授業科目名	M	経営学演習(公共経営アクションリサーチ)	授業番号	P050	単位数	2
担当教員	松田 千恵子、高尾 義明、松尾 隆		後期	別途案内		
①授業方針・テーマ	公共組織が共通に抱える問題を、実際に「経営課題」として発見し、その解決策を、経営戦略論、経営組織論、マーケティング論など経営学の視点から探索し、具体的なフィールドワークをもとに報告書を作成することを目的とする。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	学術的知見に基づいた調査計画の作成、フィールドワークの実施、および報告書の作成を到達目標とする。					
③授業計画・内容	<p>本学の「公共経営の人材育成プログラム」は、平成19年度に文部科学省「大学教育改革支援プログラム」として採択され、3年間の支援を受けたものである。文科省の支援事業終了後も、本学の教育改革推進事業に採択され、「東京都と連携した高度専門人材の養成」のための取り組みとして継続し、今日に至っている。</p> <p>これまでに取り上げたテーマは、「防災と復興のマネジメント」、「コンテンツ利用の地域振興」、「島しょ地域の抱えた問題と地域経済の活性化」、「インバウンド観光の課題と地域振興」など多岐に渡る。本年度のテーマについては、受講希望者の状況も踏まえながら追って発表のこととする。</p>					
④テキスト・参考書等	必要に応じてその都度指定する。					
⑤成績評価方法	最終報告書の完成、およびグループ研究への参画度と研究成果の内容によって評価する。					
⑥特記事項	<p>本講義は変則日程の集中講義となる。後期開始後の日程については、他の授業との重なりはないように調整する（一部のみ重複する可能性はある）ので、他の後期授業は通常通り履修可能である。グループでの現地調査に必要な往復交通費、宿泊代は大学が負担する。それ以外は個人負担とする。本講義は、その性格上、無制限の人数募集を行うことができないため、希望者多数の場合には一部受講制限を行う可能性がある。</p>					

授業科目名	M	経営学演習（知的財産法）	授業番号	P036	単位数	2
担当教員	溝田 宗司		後期	金曜日	6 時限	
①授業方針・テーマ	<p>技術立国としての日本の競争力が削がれつつある。 もちろん、様々な原因がありうるが、本来車輪の両輪の役割をする特許戦略と技術戦略がリンクしていないことが非常に大きな要因となっている。それは、経営戦略を担うべき者が、「特許」を理解していないからである。例えば、AppleとSamsungが、世界中で特許紛争を繰り広げていたが、なぜそのようなことになるのか、紛争で敗北した方はどうなるのか、なぜ特許件数で大きく劣るAppleが（日本でも、Samsungの出願件数は、Appleの出願件数のおよそ5倍）対等に戦えるのか。一言でいえば、Appleは、経営陣が特許を理解しているからである。 また、ベンチャーや中小企業にとって、特許は大企業と渡り合うための唯一の武器といってよい。このようなベンチャー・中小企業の特許戦略は大企業のそれと異なるのだろうか。 本講義では、特許法の基礎・特許業界の構造を概説し、その後、担当教員が実務で経験した事例をベースとした特許戦略の基礎を概説する。 講義をしっかりと理解できれば上記の問題には自ずと答えられよう。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>特許法の基礎その他の知的財産法の基礎 特許戦略の基礎</p>					
③授業計画・内容	<p>1 概要 2～7 特許法・特許実務 8、9、10 伝統的特許戦略（特許戦略の考え方・基本）・中小企業における特許戦略 11、12、13 事業戦略に結合した特許戦略（発展的な特許戦略） 14 総括</p>					
④テキスト・参考書等	<p>[教科書] 特になし。毎回レジュメを配布する。 [成績評価の方法] 期末レポートと出席状況・受講態度 [前提知識] 必要なし。 [参考文献] 特に必要ないが、下記文献を読んでもらえば授業の理解が深まる。 下町ロケット 池井戸潤著（小学館） 標準特許法 高林龍著（有斐閣）</p>					
⑤成績評価方法	<p>出席 2 割、講義への貢献 3 割、レポート 5 割 ただし、三回以上の無断欠席は不可とする。</p>					
⑥特記事項						

授業科目名	M	経営学演習(経営戦略とリアルオプション)	授業番号	P002	単位数	2
担当教員	中岡 英隆		前期	月曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	<p>企業の経営は、不確実性下における戦略的な投資や企業価値創造に関わる様々なオプションに対する戦略的意思決定である。シナリオプランニングは、こうした観点から、近未来に起こり得る社会の構造的変化が自社にもたらすチャンス・危機を事前に描き出し、そのシナリオをstory tellingという形で組織内に共有して、構造変化に対して戦略的かつ俊敏に対応できる組織能力を育む為の経営手法であり、本講義では、この米国経営者に最もポピュラーな経営手法の一つと言われているシナリオプランニングをグループ・ワークによる演習を通じて実践的に体得することを目指す。また、金融のオプション理論を実物資産の評価に拡張したリアルオプションは、不確実性下における戦略のフレキシビリティを評価できる最新の経営科学として、経営戦略や投資戦略、M & A戦略などに対するマネジメントの意思決定に不可欠な経営手法と言っても過言ではない。本講義では、最前線の企業活動のケースを通じて、優れたグローバル企業の経営戦略のデザインを洞察し、その中に織り込まれているオプションの仕組みについて実践的かつ直観的な理解を深めながら、オプション理論の基礎を直観的に理解し、リアルオプションの分析のフレームワークと実際の解法を習得する。そして、不確実性下におけるマネジメントの意思決定をサポートするための二つの重要な方法論であるシナリオプランニングとリアルオプションの融合という文脈において、新しいマネジメントの手法を洞察する。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>本講義では、シナリオプランニングとリアルオプションという二つの経営手法の新たな融合を目指して、まずシナリオプランニングの方法を学んだ上で、グループワークによる演習を通じてシナリオ分析の実践的な体得を図る。講義の後半では、オプション理論の基礎を直観的に理解した上で、リアルオプションの分析のフレームワークと実際の解法を順を追って習得し、代表的な応用問題についてのケース・スタディを行いながら、リアルオプションの基本理論の直観的な理解と、それを応用したビジネスの本質的な仕組みについて洞察力・実践力を高める。最後に、シナリオプランニングとリアルオプションの融合という文脈において、新しいマネジメントの手法を洞察する。</p>					
③授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> ① 不確実性下の経営戦略と投資の意思決定 ② 創発的戦略とシナリオプランニング ③ 戦略のデザインとリアルオプション ④ NPV法とリアルオプション ⑤ 離散時間モデルとリスク中立化法 ⑥ シナリオプランニング・グループ演習 ⑦ 確率積分と伊藤の公式 ⑧ シナリオプランニング・グループ演習 ⑨ リアルオプションの基本モデル(新規参入戦略) ⑩ シナリオプランニング演習結果グループ発表 ⑪ 基本モデルにおける意思決定の最適化 ⑫ 撤退戦略の最適化 ⑬ 操業停止・再開の最適化戦略 ⑭ 多品種少量生産戦略の最適化(スイッチング・オプション) ⑮ 医薬品研究開発プロジェクトの評価 					
④テキスト・参考書等	<p>[テキスト] 毎回配布のレジュメによる。 [参考書] 木島正明、中岡英隆、芝田隆志[2008]、『リアルオプションと投資戦略』朝倉書店。(毎回易しいレジュメにして配布予定) [参考文献] [1] キース・ヴァン・デル・ハイデン[1998]、グロービス監訳、『シナリオ・プランニング』ダイヤモンド社。 [2] マーサ・アムラム、ナリン・クラティラカ、石原雅行他訳[2001]、『リアル・オプション』東洋経済新報社。 [3] トム・コーブランド、ウラジミール・アンティカロフ、栃本克之監訳[2002]、『決定版リアル・オプション』東洋経済新報社。 [4] Dixit, A.K. and R.S. Pindyck (1994), Investment under Uncertainty, Princeton University Press.</p>					
⑤成績評価方法	出席状況および授業への参加姿勢と課題発表・レポートにより評価する。					
⑥特記事項	概ね文系レベルの数学を前提とする。					

授業科目名	M	経営学演習（企業倫理）	授業番号	P032	単位数	2
担当教員	岡本 享二		前期	金曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	<p>最近の米国MBAプログラムの傾向として「社会・環境問題に関連するBusiness Ethicsは欠かせない」と言われています。首都大学BSでも時代に照らし合わせるように2007年から『企業倫理論（前期）』が、2012年からは『CSR特論（後期）』が組まれています。</p> <p>『企業倫理論』ではBusiness Ethicsに関する世界動向を幅広くとらえながら、企業と社会の間に生じる倫理問題を幅広く検証しています。先進国と発展途上国とのいわゆる南北問題、地球温暖化問題に代表されるグローバルな環境問題、TPPとも関連してくると思われる遺伝子組み換え食物の問題点など、豊富な具体例を示しながら、現在の企業倫理を受講生と活発に議論して参ります。</p> <p>現在の企業倫理論は、従来の道徳や社会規範の範疇を越えて、CSR(企業の社会的責任)で扱われている、グローバルな環境問題と社会問題を抜きには語ることはできません。当講座では、最新のCSR情報を踏まえながら俯瞰的かつ現実的な倫理論を展開しています。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>授業では広い視野に立った国際的な企業倫理の動向をお伝えします。企業の不祥事の事例を取り上げて、背景にある倫理観の欠如、だれも責任を取ろうとしない社会風潮、生半可な対応策で何度も繰り返される不祥事の解決法など、倫理問題を単なる道徳や哲学で片付けるのではなく、ビジネスとして明確に事象をとらえ、具体的な解決策を提示して行きます。</p> <p>廃棄食品の再販売事件、軽井沢でのバス事故による15名の学生致死事件など、単に問題の事実関係と対応策を練るのにとどまらず、その背景にある社会の変化（経済至上主義や、運転手の過剰労働など）根本に遡って解決策を模索します。</p> <p>また、グローバル化によって問題が顕在化してきたSCM(サプライチェーン・マネジメント)や、21世紀に入って急速に生産量が増加してきた遺伝子組み換え作物・家畜に関する詳しい現状と社会への影響、それにまつわる倫理問題と言う、最新の話題も提供して参ります。</p> <p>講義は双方向コミュニケーションになるように皆さんにテーマを課して、研究成果を発表していただきながらディスカッションを行います。受講生には、出身母体を念頭に入れて、ご自身の考えをまとめていただくことをお願いします。</p>					
③授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> (1) オリエンテーション (2) 地球温暖化に関する倫理問題 (3) 生物多様性保全の重要性 (4) 安全性・利便性と環境保護のトレードオフと倫理 (5) 類似事件の絶えない食品の企業不祥事と社会の変化 (6) 重大なバス事故と企業の倫理観 (7) 企業不祥事の検証と対応策（不祥事の背景と原因） (8) エシカル購入と企業の対応（耐用年数を恣意的に下げる企業） (9) グリーンエコノミーとブルーエコノミー（新たな国際的動向） (10) 環境持続性、社会的公正、存在の豊かさ (11) 情報の不確実性の下での新しい倫理の必要性 (12) 金融資本主義の限界と自然資本主義の流れ (13) 遺伝子組み換え作物開発の現状と倫理問題 (14) 遺伝子組み換え生物などの安全性評価システム (15) 企業倫理のこれまでの変遷と将来の動向 					
④テキスト・参考書等	<p>「進化するCSR」岡本享二 著 JIPMソリューション 「CSR入門」岡本享二 著 日経文庫 「次世代CSRとESD」岡本享二（共著） ぎょうせい 「農業生物資源の利用と将来」農業生物資源研究所 丸善プラネット 「エシカル購入」山本良一・中原秀樹 編著 環境新聞社 「地球温暖化とグリーン経済」山本良一・高岡美佳 編著 生産性出版</p>					
⑤成績評価方法	出席日数と授業中の発表・討論、課題リポートを重視して総合的に評価します。					
⑥特記事項	<p>社会人としての在職経験が望まれるが、必須ではありません。</p> <p>参考文献は授業中に適宜紹介します。</p>					

授業科目名	M	経営学演習（CSR特論）	授業番号	P035	単位数	2
担当教員	岡本 享二		後期	金曜日	5 時限	
①授業方針・テーマ	<p>21世紀の企業は経済的な成長と同時に、環境・社会問題への対応が幅広く求められています。20世紀後半に始まった環境対応のみならず、今日の難民問題、貧困問題、テロ対策、倫理問題など大きな社会問題の解決がCSRの主題です。</p> <p>CSRは1990年代初頭に欧州から始まり、今や先進国のみならず、途上国においても環境悪化や労働・人権問題の高まりから強い関心を示しています。CSRの国際基準であるISO26000、財務内容とCSR項目を統合して掲載する動きに応えるIIRCなど、基本的な国際基準に始まり、企業が競争優位を築くためにCSRを自社の経営にどう活かしているかを学びます。CSRの必要性を喚起した現在の行き過ぎた金融資本主義に対する国際的な取組として、自然資本主義、バイオミクリー（生物模倣）、ブルーエコノミーなどの先進事例も合わせて学びます。</p> <p>この講座は講師の企業内でのCSR活動の体験、欧米に出向いての研究、これまでの当講座の受講生の膨大な現場報告などに基づいて、最新で豊富な実例からCSRの全貌を学んで参ります。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>CSRは経済・社会・環境の融合ととらえて「コンプライアンス」「ガバナンス」「リスクマネジメント」「環境対応」と捉えられがちですが、この講座では「先進国の消費のあり方」「貧困の撲滅」「生態系・生物多様性の保護」という根本原因に踏み込んでいます。その上で、日米欧の有力企業の具体例を示しながら、企業経営そのものにCSRを組み込む重要性を説いています。環境・社会問題の再考にはじまり、CSRの本質の追究のために資本主義のあり方や、生態系を利用した自然資本主義など、最新の社会科学を学んでいきます。さらにMoving Targetと言われるほど（深き、広く）変遷するCSRを、欧米の最新事例を紹介しながらHolisticに受講生と議論しながら進めていきます。</p>					
③授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> (1) オリエンテーション (2) CSR MatrixとCSRの本質 <ul style="list-style-type: none"> ・ CSRの全体像と変遷。経済中心社会の限界。 (3) 江戸時代に学ぶCSR <ul style="list-style-type: none"> ・ 江戸時代の市民生活とCSRの発想。江戸時代の商人と倫理観。 (4) 欧米から学ぶCSRの起源 <ul style="list-style-type: none"> ・ Gloval Compact、ISO26000、AA1000、GRI、IIRCなどの国際基準。 (5) 先進国の消費のあり方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 発展途上国の貧困問題。資本主義の限界とグローバル化の負の部分。 (6) 企業の不祥事に学ぶCSR (7) ホリスティック・マネジメント・システム (8) 行き過ぎた資本主義の弊害 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「資本主義はなぜ自壊したか」「暴走する資本主義」など経済学者の新視点。 (9) 今日の資本主義の問題点を見据えていたカール・ポランニーの「大転換」 (10) 食糧問題・農業・食の安全と遺伝子組み換え技術から学ぶCSR <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全性、倫理、生物多様性への影響を検証する。 (11) SCM(サプライ・チェーン・マネジメント) に見るCSR <ul style="list-style-type: none"> ・ SCMの変貌とグローバルな課題。ISO26000とSCM。 (12) 次世代CSRへの展望 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然資本主義のひろがり。生態系や生物多様性に学ぶ企業経営とは。 (13) 環境・CSR報告書から俯瞰する現代企業のCSR実践と課題# 1 (14) 環境・CSR報告書から俯瞰する現代企業のCSR実践と課題# 2 (15) 環境・CSR報告書から俯瞰する現代企業のCSR実践と課題# 3 					
④テキスト・参考書等	<p>「進化するCSR」岡本享二著 JIPMソリューション 「CSR入門」岡本享二著 日経文庫 「次世代CSRとESD」岡本享二（共著） ぎょうせい その他、講義の中で随時コピーを配布する。</p>					
⑤成績評価方法	<p>出席日数と授業中の発表・討論、課題レポートを重視。 配点は出席点（50%）、発表・討論・課題レポート（50%）。 期末試験はしないで総合的に評価します。</p>					
⑥特記事項	<p>社会人としての在職経験が望まれるが、必須ではない。 参考文献は授業中に適宜紹介します。</p>					

授業科目名	M	経営学演習（戦略経営Ⅰ）	授業番号	P054	単位数	2
担当教員	坂本 雅明		前期	木曜日	5時限, 6時限	
①授業方針・テーマ	<p>経営戦略が戦略の内容を対象にするのに対し、戦略経営では戦略のプロセス（策定－実行－評価）を対象にします。戦略経営という言葉は馴染みが薄いかもしれませんが、米国ではStrategic Managementという題名で、多数のテキストが出版されています。</p> <p>戦略経営Ⅰでは、戦略の策定プロセスを扱います。戦略に関する理論や分析ツールについて、個別には理解している人は多いと思いますが、それでは戦略を策定することはできません。それらが策定プロセスの中で統合されなければなりません。何をどの順番で使うか、また何をインプットとして、次工程のために何をアウトプットにするかを理解する必要があります。もちろん、戦略策定プロセスは企業によって異なりますし、業種・業態によっても変わります。ここでは最も汎用的と思われるプロセスを紹介いたします。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>戦略策定スキルを、再現可能なレベルで習得することを目指します。</p>					
③授業計画・内容	<p>戦略策定プロセスを便宜的にいくつかのフェーズに分け、各フェーズでは講義の後に、ケーススタディーによってアウトプットしていただきます。ケースは事前課題として取り組んでいただきます。ただし1時間以内で完了する分量です。</p> <p>授業当日はスモールグループ・ディスカッション（3-4人）を経た後で、全体討議をします。講義：グループディスカッション：全体討議＝3：1：1の時間配分を考えています。理論よりも使い方にウエイトを置きます。</p> <p>●使用ケース プラス/アスクル、村田製作所/ローム、パイオニア、湾岸戦争、ARM/Qualcomm/Intel、その他架空企業のケース等を予定。市販のケースではなく、講義内容に合うように作成したオリジナルケースです。</p> <p>●授業内容 01-02 環境分析 ：外部・内部分析 03-04 事業機会の検討 ：事業コンセプト、3C分析 05-06 市場戦略の策定 ：顧客・競合分析、差別化戦略 07-08 競争戦略の策定 ：業界構造分析、競争戦略、協調戦略 09-10 企業戦略の策定 ：ドメイン、PPM、多角化、シナジー 11-12 ビジネスモデル ：利益モデル、ビジネスシステム 13-14 実行計画、リスク、収支計画 15-16 グループワーク発表もしくは試験</p> <p>●授業日程 木曜日隔週・2コマ連続 04/07、04/21、05/12、05/26、06/09、06/23、07/07、07/21</p>					
④テキスト・参考書等	<p>毎回レジュメを配布します。</p> <p>坂本雅明（2016）『経営戦略策定ガイドブック』同文館出版 ※7月発刊予定 青島矢一・加藤俊彦（2003）『競争戦略論』東洋経済新報社 小倉昌男（1999）『小倉昌男：経営学』日経BP社</p>					
⑤成績評価方法	<p>2回（4コマ）を超える欠席をしないことが最低条件です。</p> <p>その上で、宿題、授業中の発言、グループ課題/最終試験を考慮して成績を付けます。</p>					
⑥特記事項	<p>戦略策定に関する幅広い知識を体系的に学ぶことができますので、M1での受講をお勧めします。何よりも出席を心がけてください。3回（6コマ）を欠席した場合は、理由に関わらず単位を与えないことはできません。</p> <p>遅刻も控えてください。毎回の授業は教育効果を考えて3時間のスケジュールを設計しています。会社業務の関係で授業開始時間に間に合わないことがはっきりされている方は、履修なさらないことをお勧めします。</p> <p>連絡先 sakamoto.tmu@gmail.com</p>					

授業科目名	M	経営学演習（戦略経営Ⅱ）	授業番号	P055	単位数	2
担当教員	坂本 雅明		後期	木曜日	5 時限, 6 時限	
①授業方針・テーマ	<p>経営戦略が戦略の内容を対象にするのに対し、戦略経営では戦略のプロセス（策定—実行—評価）を対象にします。戦略経営という言葉は馴染みが薄いかもしれませんが、米国ではStrategic Managementという題名で、多数のテキストが出版されています。</p> <p>戦略経営Ⅱでは、戦略の実行・評価プロセスを扱います。Strategic Managementのテキストのほとんどすべては、実行・評価については最終章に僅かに掲載されているだけです。それは、実行・評価に関しては、組織論、管理会計、組織行動学、人材マネジメント、あるいはアカデミックでは扱われない（しかし実務では非常に重要な）問題解決など、多岐の領域にまたがるものが影響しています。ここでは、それらについて“戦略を実現するための”という文脈に限定して説明します。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ●戦略の実行管理能力 ●人や組織を動かす方法 					
③授業計画・内容	<p>実行・評価プロセスを便宜的にいくつかのフェーズに分け、各フェーズではショートケースを使ったディスカッションをした後に、講義をします。ケースは事前課題として取り組んでいただきます。ただし1時間以内で完了する分量です。</p> <p>授業当日はスモールグループ・ディスカッション（3-4人）を経た後で、全体討議をします。講義：グループディスカッション：全体討議＝3：1：1の時間配分を考えています。理論よりも使い方にウエイトを置きます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●使用ケース パナソニック、カネボウ、ジャパネットたかた、その他架空企業のケースを予定。市販のケースではなく、講義内容に合うように作成したオリジナルケースです。 ●授業内容 01-02 戦略検討会議：段取りとファシリテーション 03-04 新事業のマネジメント：研究開発成果の事業化 05-06 戦略の見える化と管理：バランス・スコアカード 07-08 継続的戦略修正：データ分析と問題解決 09-10 戦略の伝達：上層部への説明と部下への説明 11-12 組織のマネジメント：組織開発 13-14 部下のマネジメント：マネジャーの役割と課題 15-16 グループワーク発表もしくは試験 ●授業日程 木曜日隔週・2コマ連続 10/06、10/20、11/10、11/24、12/08、12/22、01/12、01/26 					
④テキスト・参考書等	<p>毎回レジュメを配布します。</p> <p>坂本雅明（2016）『戦略の実行とミドルのマネジメント』同文館出版 S. P. ロビンズ（2009）『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社 L. V. ガースナー（2002）『巨像も踊る』日本経済新聞出版社</p>					
⑤成績評価方法	<p>2回（4コマ）超える欠席をしないことが最低条件です。</p> <p>その上で、宿題、授業中の発言、グループ課題/最終試験を考慮して成績を付けます。</p>					
⑥特記事項	<p>マネジメントに関する幅広い知識を体系的に学ぶことができますので、M1での受講をお勧めします。何よりも出席を心がけてください。3回（6コマ）を欠席した場合は、理由に関わらず単位を与えないことはできません。</p> <p>遅刻も控えてください。毎回の授業は教育効果を考えて3時間のスケジュールを設計しています。会社業務の関係で授業開始時間に間に合わないことがはっきりされている方は、履修なさらないことをお勧めします。</p> <p>連絡先 sakamoto.tmu@gmail.com</p>					

授業科目名	M	経営学特別演習	授業番号	P014	単位数	2
担当教員	浅野 敬志、野口 昌良、細海 昌一郎		後期	金曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	財務報告制度は、資本市場で開示される情報に信頼性を付与し、健全な資本市場を構築するための重要なインフラである。財務報告制度に対する信頼性を高めるためには、国内外の投資家のニーズや会議における制度の進展状況等を踏まえて、制度の在り方について継続的に検討していく必要がある。本演習では、財務報告制度に関連する文献講読を通じて、資本市場を十分に機能させるために有効な財務報告制度を検討する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本講義の目的は、国内外の文献を通じて、資本市場を十分に機能させるために有効な財務報告制度を検討することにある。修士論文のテーマ探しだけでなく、リサーチ・デザインなどにも参考にいただきたい。					
③授業計画・内容	財務報告制度に関する研究をフォローするために、国内外の文献を講読する。海外の文献としては、主に北米のTop tierと呼ばれる雑誌（Accounting Review、Journal of Accounting Research、Journal of Accounting and Economics、Review of Accounting Studies、Contemporary Accounting Research等）に掲載された論文の講読を予定している。					
④テキスト・参考書等	授業中に適宜提示する。 【参考文献】 [1] Beyer, A., D. A. Cohen, T. Z. Lys, and B. R. Walther, 2011, The financial reporting environment: Review of the recent literature, Journal of Accounting and Economics 50 (2-3), 296-343. [2] Dechow, P., W. Ge, and C. Schrand, 2011, Understanding earnings quality: A review of the proxies, their determinants and their consequences, Journal of Accounting and Economics 50 (2-3), 2344-401.					
⑤成績評価方法	授業への出席状況、参加態度、発表内容、レポート等によって総合的に評価する。					
⑥特記事項	財務会計特論、経営分析特論を履修することが望ましい。					

授業科目名	M	経営学特別演習	授業番号	P021	単位数	2
担当教員	渡辺 隆裕、室田 一雄、森口 聡子、山下 英明		後期	金曜日	5 時限	
①授業方針・テーマ	<p>実社会における経営科学をテーマとし、経営科学、オペレーションズ・リサーチの事例研究や最近の研究動向をサーベイする。</p> <p>解説記事、研究論文などを受講生に割り当て、授業中に受講生各自がその内容について解説する輪読方式を採用する。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>以下を習得することを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経営科学が実社会においてどのように役立っているか 2. オペレーションズ・リサーチ、数理計画による経営上の問題の解決法、意思決定能力 3. 数理モデル化の技術 					
③授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実社会におけるオペレーションズ・リサーチ 2. 数理モデルとシミュレーション 3. 待ち行列理論（1）混雑現象 4. 待ち行列理論（2）キャッシュのモデル化 5. 待ち行列理論（3）コールセンター 6. 数理計画を用いた意思決定 7. 計算機（コンピュータ）による求解と計算複雑度 8. 線形計画問題（1）解法 9. 線形計画問題（2）生産計画への応用 10. グラフ理論とネットワーク計画（1）ロジスティクス 11. グラフ理論とネットワーク計画（2）都市計画とネットワークデザイン 12. 組合せ最適化（1）施設配置計画 13. 組合せ最適化（2）シフトスケジューリング 14. 組合せ最適化（3）発見的解法、メタヒューリスティクス 15. 在庫管理とSCM 					
④テキスト・参考書等	上記の解説記事、研究論文を教材として用いる、教材は配付する。					
⑤成績評価方法	授業中の発表、平常の理解度、レポートに基づいて評価する。					
⑥特記事項	<p>【前提知識】 マネジメント・サイエンスⅠ、Ⅱを受講している、あるいは受講中であることが望ましい。</p> <p>【自宅学習】 テキスト・論文の担当者は、本質的な内容を理解し、わかりやすく説明できる（講義ができる）ように準備をしていくこと。</p>					

授業科目名	M	経営学特別演習	授業番号	P022	単位数	2
担当教員	高尾 義明、西村 孝史		後期	火曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	組織行動論及びヒューマン・リソース・マネジメント（人材マネジメント／人的資源管理論）に関する文献講読を行うとともに、これらの分野を研究するための研究方法について解説します。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 組織行動論およびヒューマン・リソース・マネジメント（人材マネジメント／人的資源管理論）に関する文献講読を通じて、これらの領域における理論枠組みについての理解を深めること 2. 受講生が当該領域についての学術的かつ独自の問題意識を見出し、修士論文・課題研究論文の土台を作ること 					
③授業計画・内容	前半の授業では、1コマで1～2本の論文を読み、原則として文献ごとに決めた発表担当者が文献内容を発表したうえで、それに基づくディスカッションを行います。後半の授業では、各自が探したレビュー論文を紹介してもらうことや研究計画書を発表してもらうことを予定しています。					
④テキスト・参考書等	<p>毎回講読する文献については第1回で説明し事前に配付します。</p> <p>以下のテキストは購入の必要はありませんが、手元にあると参考になる本です。</p> <p>[1] 守島基博（2004）『人材マネジメント入門』日本経済新聞社。</p> <p>[2] 今野浩一郎（2009）『人事管理入門 第2版』日本経済新聞社。</p> <p>[3] 佐藤博樹・藤村博之・八代充史（2015）『新しい人事労務管理 第5版』有斐閣。</p> <p>[4] Robbins, S. P. (2005). Essentials of Organizational Behavior, 8th Edition Prentice-Hall（高木晴夫訳『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社 2009）。</p> <p>[5] 二村敏子（2004）『現代ミクロ組織論』有斐閣。</p>					
⑤成績評価方法	授業への参加・積極的貢献及びレポートにより評価します。					
⑥特記事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「組織行動特論」・「ヒューマン・リソース・マネジメント特論」・「経営組織特論」から1科目以上を履修済み（または履修中）であることが望ましい。 2. 資料は、原則としてweb上（kibaco）でアップをします。 					

授業科目名	M	経営学特別演習	授業番号	P028	単位数	2
担当教員	長瀬 勝彦		後期	月曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	行動意思決定論について研究する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	行動意思決定論の理論枠組みと諸概念についての理解を深め、基礎的な研究アプローチの手法を修得する。					
③授業計画・内容	行動意思決定論に関連する重要文献を読み授業でディスカッションをして知識を深めると共に学術的思考力を養う。					
④テキスト・参考書等	前半は『行動意思決定論：バイアスの罠』(M. H. ベイザーマン&D. A. ムーア [著]、長瀬勝彦 [訳]、白桃書房、2011年)を教科書として、毎回事前課題を提出し、それをもとに議論する。後半はひとりずつ英語の学術論文について報告し、それについて受講者間でディスカッションをする。					
⑤成績評価方法	授業での発言やレポート等により評価する。試験はおこなわない。					
⑥特記事項	意思決定特論を履修済みであることを条件とする。					

授業科目名	M	経営学特別演習	授業番号	P040	単位数	2
担当教員	高橋 勅徳、桑田 耕太郎		後期	土曜日	1 時限, 2 時限	
①授業方針・テーマ	組織理論（マクロ組織論、制度派組織論、組織変革等）で修士論文等を執筆する予定の学生を対象に、基礎的な文献を学習しつつ、論文のテーマを絞り込んでいくことを目的とする。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	組織理論（マクロ組織論、制度論、組織変革論）の基礎的文献に関する知識を習得すると共に、修士論文等を作成の研究計画の策定していくことを到達目標とする。					
③授業計画・内容	本講義では、マクロ組織論、制度派組織論、組織変革論の古典の輪読を行うと共に、月1～2回のペースで研究計画の報告会を行う。					
④テキスト・参考書等	随時指定する。 各自の問題意識に応じて必要文献を紹介するので、随時相談に来ること。					
⑤成績評価方法	修士論文等の問題意識や方向性が明確になっているかどうかを評価する。					
⑥特記事項	原則として、ビジネスイノベーション特別演習の授業と変則交代で開講するため、開講日程に十分注意すること。2コマ連続授業であるため、欠席しないで授業に積極的に参加すること。					

授業科目名	M	経営学特別演習	授業番号	P046	単位数	2
担当教員	水越 康介、中山 厚穂		後期	土曜日	4 時限	
①授業方針・テーマ	演習では、主にマーケティング論に関する問題認識の醸成を目的として、先行研究を読み解くとともに、研究方針の検討を行います。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	まず、伝統的な心理学的アプローチを基本に据え、消費者行動の基礎的な理論から先端的な研究動向について学び、その後、具体的な商品やサービスの事例を通して、マーケティング戦略を実行するためのデータ解析の手順や手法について学習する。					
③授業計画・内容	<p>①先行研究の輪読と分析（例）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『マーケティングの神話』（石井淳蔵） ・『1からのマーケティング分析』（恩藏直人、富田健司） <p>②研究方針の検討</p> <p>※具体的な内容については、参加者との打ち合わせを経て変更の可能性がある。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> 『マーケティングの神話』（石井淳蔵） 『ことばとマーケティング』（松井剛） 『1からのマーケティング分析』（恩藏直人、富田健司） <p>参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> 『新しい消費者行動』（清水聡） 『マーケティング思考の可能性』（石井淳蔵） 『マーケティング入門』（小川孔輔） 『マーケティング・サイエンスの基礎』（朝野熙彦） 					
⑤成績評価方法	出席状況と、報告・発表内容によって総合的に評価する。					
⑥特記事項	<p>マーケティング・マネジメント特論、マーケティング・サイエンス特論、マーケティング・サイエンス特別演習を受講していることが望ましい。</p> <p>【自宅学習】</p> <p>輪読のための準備や実習課題などを、適宜、自宅学習の課題として設定する予定である。</p>					

授業科目名	M	経営学特別演習	授業番号	P047	単位数	2
担当教員	松田 千恵子、松尾 隆		後期	土曜日	4 時限	
①授業方針・テーマ	経営学特別演習は、演習参加者の問題意識の醸成、研究課題の深掘、研究計画書の精緻化を目的として開講する。前半に、研究方法論についての実習を行い、後半は専門的な研究の実例に触れ研究手法などを学ぶことで、自身の研究の指針とする。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	同上					
③授業計画・内容	<ul style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション（研究に向かうマインドセット）（松尾） ② 研究領域の決定と既存研究のサーベイ（松尾） ③ 研究領域のマップ作成（松尾） ④ キー論文の精読（松尾） ⑤ 研究テーマ、仮説の決定（松尾） ⑥ 技術と戦略1（松尾） ⑦ 技術と戦略2（松尾） ⑧ 経営戦略とファイナンス、資本市場の活用（松田） ⑨ 企業価値の創造とコーポレートガバナンス（松田） ⑫ グループ経営と事業ポートフォリオマネジメント、M & Aの理論と実践（松田） ⑬ 経営戦略分野における研究手法の基礎（1）-実証分析、イベントスタディ等（松田） ⑭ 経営戦略分野における研究手法の基礎（2）-ケーススタディ等（松田） ⑮ 研究計画の発表とディスカッション（松尾、松田） 					
④テキスト・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜パワーポイント等の資料を使用することがある。 ・その他、参考書としては以下の通り。 [1] 楠木建『ストーリーとしての競争戦略論』（東洋経済新報社） [2] 藤本隆宏ほか『ビジネスアーキテクチャ』有斐閣 [3] 吉原英樹ほか『日本企業の多角化戦略』（日本経済新聞社） [4] ロバート・C・ヒギンズ『新版 ファイナンシャル・マネジメント — 企業財務の理論と実践』（ダイヤモンド社） [5] ティム・コラーほか『企業価値評価 第5版【上】【下】』（ダイヤモンド社） [6] 松田千恵子『グループ経営入門』（税務経理協会） [7] G. キングほか『社会科学のリサーチ・デザイン—定性的研究における科学的推論』勁草書房 [8] 北村行伸『実証分析入門』日本評論社 ほか 					
⑤成績評価方法	課題の発表内容とディスカッション参加度により評価する。					
⑥特記事項	前期に、経営戦略特論、経営戦略特別演習のいずれかの講義を受講していること。					

平成28年（2016）年度
社会科学研究科経営学専攻
（高度専門職業人養成プログラム）
授業概要・履修案内

登録番号 (27) 99

平成28年4月1日発行

発行 首都大学東京大学院社会科学研究科
東京都八王子市南大沢一丁目1番地
〒192-0397 電話 042 (677) 1111
印刷所 株式会社 サンニチ印刷